

- 教育職員評価システム操作マニュアル
- 教育職員評価に関するQ & A
- 教育職員評価に関する規則関係について



教育職員評価システム  
操作マニュアル

平成 18 年 4 月



## 目次

### はじめに

教育職員評価のスケジュールについて	1
評価手順について	2
評価項目と教員情報データベースの該当項目一覧	3
1. データベースへのアクセスの仕方	
(1) Webブラウザ	4
(2) 初期画面	5
<b>評価申請者側の評価シートのマニュアル</b>	7
2. 評価シート画面	8
3. ウェイト設定（重みの設定）	
(1) ウェイト設定について	9
4. 「教育」の評価シート画面	
(1) 「学部教育」「大学院教育」の領域について	10
(2) 教育の質の領域について	12
(3) 組織的な教育関係活動における貢献、その他	13
(4) シートの選択について	14
5. 「研究」の評価シート画面	17
6. 「社会貢献」の評価シート画面	20
7. 「管理運営」の評価シート画面	22
8. その他自由記述	24
9. 評価申請	25
10. 評価結果	27
11. 意見の申し立て	29
12. 最終評価結果	31
<b>評価者側の評価シートのマニュアル</b>	33
13. 申請されたシートの評価方法	34
(1) 評価の記載について	36
(2) 各領域の自己申告部分を評価し、加点する場合	37
(3) 「研究」のシートについて	38
(4) 4段階評価（複合評価）に加点する場合	39
(5) 指示・伝達事項の記載について	40
14. 意見の申し立て内容を検討	41
<b>資料</b>	42
教育職員評価方法	43
各領域の評価基準と算定方法	
「教育」	44
「研究」	46
「社会貢献」	47
「管理運営」	48
自由記述部分の入力サンプルについて	50

## はじめに

本学では、教育職員の教育研究活動等の一層の活性化を図り、質的向上に努めることを目的として、中期目標・中期計画において教育職員の評価を実施することが盛り込まれています。

教育職員評価の実施に向け、大学評価委員会において他大学の例などを参考に評価方法などについての検討を行った結果、平成17年度に一部の教育職員を対象に試行評価を、平成18年度に全ての教育職員を対象に本格評価を実施し、以降3年ごとに評価を実施するという計画を決定し、教育研究評議会、経営協議会の審議を経て、役員会で承認されました。

教育職員評価の実施にあたり、「教育職員評価実施要項」を制定し、これに基づいて評価を実施することとしています。

評価方法としては、まず、4つの評価の領域（教育、研究、社会貢献、管理運営）別に、5段階評価の領域別評価を行います。その際、教育、研究及び管理運営については評価項目ごとに設けられた3つの水準（A、B、C）の該当状況に応じて、また、社会貢献については該当件数に応じて、5段階評価を決定します。

その上で、各評価の領域の5段階評価に自己評価による「重み」を各領域別に乘じ、その和を算出し、「最良」、「良好」、「やや問題があり改善の余地がある」、「問題があり改善を要する」の4段階評価を決めていく複合評価を行います。

なお、評価作業の効率化を図るため、ロータスノート上に「教育職員評価シート」を利用して評価を行う「教育職員評価システム」を稼働させ、その運用のため「教育職員評価システム運用方針」と本「教育職員評価システムの利用方法」を作成しました。

評価は、「教育」、「社会貢献」及び「管理運営」については過去3年度分（平成15年度～17年度）、「研究」については過去5年度分（平成13年度～17年度）の活動状況を「評価シート」に入力、それに基づき行います。評価項目によっては、「教員情報データベース」に登録された情報を評価の基礎データとして活用することとしています。

評価方法等については、教育職員評価の結果や組織評価、外部評価の結果を踏まえ、より良い教育職員評価となるよう、進化する評価システムを目指して改善を図ることとしています。

＜評価システム及びデータベースの操作方法の問い合わせ先＞

大学評価室（戸畑）	山出、桑野	内線 3513
	氏次	内線 3514

教育職員評価のスケジュールについて

月	日	曜	教員側	評価側 (部局等)	学長
4月			説明会 教員情報データベースの入力	評価対象教育職員の決定	
5月			評価シートを入力		
6月	30日	金	↓ 評価申請 (30日(金)締切) →		
7月				評価の実施 (1ヶ月+3週間)	
8月	21日	月		← ↓ 評価結果内示 (21日(月))	
9月	4日	月	意見の申し立て (2週間) (8/21(月)~9/4(月)) ↓	申立て内容を検討 (1ヶ月) (9/5(火)~10/5(木))	
10月	6日	金		← ↓ 評価結果確定・各教育職員へ通知 (6日(金)) 評価結果を学長へ報告 (6日(金))	報告内容を検討 (2週間)
10月	20日	金	改善計画書の作成 (再評価対象者を除く)	改善計画書作成を対象教育職員へ通知 (20日(金)) (再評価対象者を除く) ※ 再評価の実施 (3週間)	※ 再評価要請 (20日(金))
11月	10日	金		← ↓ ※ 再評価結果確定・対象教育職員へ通知 (10日(金)) ※ 再評価結果を学長へ報告 (10日(金))	
11月	15日	水	改善計画書の作成 (再評価対象者のみ)	← ↓ ※ 改善計画書作成を対象教育職員へ通知 (再評価対象者のみ) (15日(水))	
12月	15日	金	↓ 改善計画書 部局長へ提出 (15日(金)) →		
12月	26日	火		評価結果の分析・改善計画書 について学長へ報告 (26日(火))	
1月					教育研究評議会 役員会 経営協議会
2月			評価結果公表 (2月)		

※ 再評価の要請があった場合のスケジュール

○ 評価手順について

- (1) 各教育職員は、教員情報データベース及び教育職員評価シート（重み付けを含む）を入力し、評価申請を行います。  
 評価シートには、数値で評価する項目と自由記述による項目があります。なお、各領域には「その他」の自己申告の項目を設けており、ここでご自分がアピールしたい事を記載することができます。  
 また、全体を通して「その他自由記述」の中でご自分がアピールしたいことを記載することもできます。さらに、今回の評価における反省点や今後の目標などは、必ず記載いただくこととしております。
- (2) 評価実施担当者は、4つの評価の領域（教育、研究、社会貢献、管理運営）別に、5段階の領域別評価を実施します。  
 なお、各領域の「その他」の自己申告欄のアピール内容を評価した上で、5段階評価に加点する（1段階上に上げる）ことができます。  
 また、必要と判断した場合には、申請内容についてさらに報告を求めることがあります。
- 教育、研究、管理運営： 評価項目ごとに設定した3つの水準（A、B、C）の該当状況により決定。
- 社会貢献： 評価項目ごとの該当件数により決定。
- (3) 部局の長又は各センター長は、自己申告による「重み」を各領域の評価に乘じ、その和を算出して、  
 「最良」  
 「良好」  
 「やや問題があり改善の余地がある」  
 「問題があり改善を要する」  
 の4段階評価を決定します。併せて申請内容に対するコメントを記載します。  
 なお、「その他自由記述」の記載を参考に、この4段階評価に加点をする（1段階上に上げる）ことができます。
- (4) 評価結果を各教育職員に内示します。
- (5) 各教育職員は、評価結果に対する意見の申し立てや重み付けの変更があれば、その内容又は理由を記載し、意見の申し立てを評価側に通知します。
- (6) 評価実施担当者は、意見の申し立て等について検討し、最終的な評価結果を決定し、各教育職員に通知します。

この評価では、教員情報データベースに入力いただいたデータを評価シートで活用することとしています。右ページは、その評価項目についてのデータベースと評価シートの対応を表した一覧表です。（網掛けの項目を評価シートで使用します。）

（※1「記号」については、このマニュアルに記載している評価項目と対応しています。）

②について、「教育」、「社会貢献」、「管理運営」は、過去3年度分、研究は過去5年度分を評価の対象期間としています。

（今回の評価では、右のページの ※2の該当年度については、下記のとおりです。）

評価の領域	評価対象期間	該 当 年 度
「教 育」	過去3年度分	（平成15（2003）年度～17（2005）年度分）
「研 究」	過去5年度分	（平成13（2001）年度～17（2005）年度分）
「社会貢献」	過去3年度分	（平成15（2003）年度～17（2005）年度分）
「管理運営」	過去3年度分	（平成15（2003）年度～17（2005）年度分）



評価項目と教員情報データベースの該当項目一覧

		※1		※2			
教員情報データベースの項目		記号	過去〇年度分	教育	研究	社会貢献	管理運営
教育活動	1 担当授業科目(学部)	ア	3年	○			
	2 担当授業科目(大学院)	エ	3年	○			
	3 指導補助授業科目						
	4 卒業研究指導	イ・ウ	3年	○			
	5 修士論文指導	オ	3年	○			
	6 博士論文指導	カ	3年	○			
	7 博士審査	キ	3年	○			
	8 指導教員	ウ	3年	○			
	9 オフィスアワー						
	10 組織的教育活動への貢献	セ	3年	○			
	11 FD活動への参加	ク	3年	○			
	12 教科書執筆	シ	3年	○			
	13 教育に関する兼業						
	14 教育活動に関する特記事項	ソ	3年	○			
研究活動概要	15 現在の専門分野(研究分野)						
	16 研究分野を表すキーワード						
	17 現在の研究課題						
	18 共同研究等希望テーマ						
	19 企業向けPR						
	20 受験者向けPR						
	21 使用する外国語						
	22 おすすめのURL						
	23 提供可能な資源						
	代表的	24 代表的研究業績					
個別研究業績等	25 発表論文A	タ	5年		○		
	26 発表論文B	ツ	5年		○		
	27 発表論文C	チ	5年		○		
	28 著書	ナ	5年		○		
	29 特許	ニ	5年		○		
	30 実用新案						
	31 研究成果有体物						
	32 口頭発表A	テ	5年		○		
	33 口頭発表B	テ	5年		○		
	34 口頭発表C	テ	5年		○		
	35 解説	ト	5年		○		
	36 その他研究業績						
	37 講演	ヌ	5年		○		
	38 表彰・受賞	ネ	5年		○		
	39 報道	ノ	5年		○		
	40 学会活動	ム・メ・モ	3年			○	
	41 役兼業						
	42 ベンチャー						
外部資金・競争的資金獲得等	43 研究活動に関する特記事項	マ	3年		○		
	44 出資金事業による研究	ハ・ヒ	5年		○		
	45 共同研究・受託研究	フ・ヘ	5年		○		
	46 奨学寄付金・財団等研究助成	ホ	5年		○		
	47 開学75周年記念事業						
	48 学内共同研究						
	49 学外共同研究						
50 外部資金・競争的資金獲得等に関する特記事項	マ	5年		○			
社会貢献活動	51 公的団体の委員等	ミ	3年			○	
	52 本学主催の講演会・セミナー等	ヤ	3年			○	
	53 社会人教育等	ユ	3年			○	
	54 出前講義	ヨ	3年			○	
	55 社会貢献活動に関する特記事項	ラ	3年			○	
国際連携・交流活動	56 国際会議開催	メ	3年			○	
	57 国際会議参加						
	58 国際共同研究						
	59 海外渡航						
	60 海外研究歴(1ヶ月以上)						
	61 交流窓口担当						
	62 留学生指導教官	ウ	3年	○			
	63 開発途上国等支援活動						
64 国際連携・交流活動に関する特記事項							
管理運営・その他	65 管理運営上の責任者	リ	3年				○
	66 経営協議会・教育研究評議会	ル	3年				○
	67 全学委員会	ル	3年				○
	68 部局委員会	レ	3年				○
	69 管理運営に関する特記事項	ヲ	3年				○
	70 その他特記事項						

## 1. データベースへのアクセスの仕方

### (1) Webブラウザ

Webブラウザで、下記のアドレスにアクセスします。

キャンパス	アドレス
戸畑キャンパス	
飯塚キャンパス	
若松キャンパス	

(注) Web ブラウザは、OS が Windows2000,XP の場合はインターネットエクスプローラー5.5 以上又はネットスケープ 7.0 以上、OS が MAC OS 9.2 以上の場合はネットスケープ 7.0 以上であることが必要です。

以下のユーザー認証画面が表示されます。

ユーザー名とパスワードを入力し、ログインボタンをクリックして下さい。

## サーバーログイン

ユーザー名とパスワードを入力してください

ユーザー名

パスワード

(注) ユーザー名とパスワードは事前に各職員に配布されています。不明な方は、各キャンパス操作支援者にお問い合わせ下さい。

### <操作支援者>

キャンパス	氏名	連絡先	
		内線	E-mail
戸畑			
飯塚			
若松			

## (2) 初期画面

パスワードを入力し、ログインをクリックすると下記の画面が開きます。

### 評価システムメニュー

入力例: ★★★学部 ●●●●学科 戸畑 花子 助教授



評価シートの編集を行うには  
以下の「評価シートの編集」ボタンをクリックし、各項目を入力してください。

評価シートの編集

操作マニュアルをPDF形式で掲載しています。



# 評価申請者側の 評価シートマニュアル

P 8～P 3 2は、教育職員が評価シートを用いて、自己評価をし、評価を申請する際に使用するシステムのマニュアルになります。

## 2. 評価シート画面

評価シートの概要です。参考に「教育」の部分を開いています。

✕ 閉じる
📄 保存

### 評価シート

入力例: ★★★学部 ●●●●学科 戸畑 花子 助教授

評価について申請を行う場合は内容を入力・確認の上、以下のボタンをクリックしてください。  
※一旦申請すると、評価結果の通知まで変更できません。

○ウエイト設定

評価領域	ウエイト(%)
教育	25%
研究	25%
社会貢献	25%
管理運営	25%
合計	100%

[ウエイト設定について](#)

○チャート

A.教育 10  
B.研究 7.5  
C.社会貢献 5  
D.管理運営 2.5

以下の項目に申請理由等あれば記入して下さい。

※ウエイト変更後は必ず「再計算」ボタンをクリックしてください。

[社会貢献](#) | [管理運営](#) | [その他自由記述](#)
※教育の評価基準及び算

教育の評価:  学部・大学院 両方  学部主体  大学院主体 で評価する。

2003年度～2005年度(過去3年分)

評価の領域	評価項目	件数/評価	評価指標
学部教育	授業担当(学部)	10件/B	2
	卒業研究指導	11件/B	
	留学生指導(学部)	0件/C	
大学院教育	授業担当(大学院)	0件/C	1
	博士前期課程指導	14件/A	
	博士後期課程指導	4件/A	
	博士論文審査(主査のみ)	1件/B	

教育の質

評価項目	評価	件数/評価	評価指標
FD活動への参加	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <a href="#">入力サンプルの表示</a>		1
教育達成目標とその妥当性	<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <a href="#">入力サンプルの表示</a>		
教育達成目標の達成状況	<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <a href="#">入力サンプルの表示</a>		
教育内容面での取組と改善方策	<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <a href="#">入力サンプルの表示</a>		
教科書作成		2件/A	
その他観点			

タブをクリックし、「教育」「研究」「社会貢献」「管理運営」の内容を入力・確認して下さい。「その他自由記述」の欄は、ご自分のアピール点や反省点などをご記載下さい。

ウエイト反映後の「教育」、「研究」、「社会貢献」、「管理運営」の状態をチャートで表示します。

ここをクリックすると教員情報データベースからの最新の状態がシートに反映されます。教員情報DBの内容を変更した場合は、ここをクリックして下さい。

ここは、教員情報DBの登録データと評価基準を勘案し、表示しています。

ここは、自由記述の欄になっています。「入力サンプルの表示」をクリックすると記載例を参照することができます。



### 3. ウェイト設定（重みの設定）

#### （1）ウェイトの設定について

シートに記載した文章などを入力したい場合は、「保存」をクリックして下さい。

入力例:★★★学部 ●●●●学科 戸畑 花子 助教授

評価について申請を行う場合は内容を入力・確認の上、以下のボタンをクリックしてください。  
※一旦申請すると、評価結果の通知まで変更できません。

評価領域	ウェイト(%)
教育	25 %
研究	25 %
社会貢献	25 %
管理運営	25 %
合計	100%

以下の項目に申請理由等あれば記入して下さい。

※ウェイト変更後は必ず「再計算」ボタンをクリックしてください。

ウェイトの数値を入力し、申請理由があれば枠内に記載して下さい。

重みは、過去の状況（研究：過去5年間 教育など過去3年間）を勘案して、「重み指数表①」に従って4つの評価の種類の合計が100%になるようにデータベースに入力して下さい。

〔重み指数表 ①〕

評価の領域	役職名				(%)
	助手	助教授・講師	教授	部局長、副部局長、副学長、理事	
教育	10～40	20～50	20～50	10～30	
研究	30～90	30～70	20～50	10～30	
社会貢献	0～20	5～30	10～50	10～30	
管理運営	0～20	5～30	10～50	50～70	

- \* 役職ごとに、上限の最大値に当該種類以外の下限の和を加えたものが100%以下になるように設定しています。
- \* 各種類について、上限、下限の数値が助手、助教授、教授で単調増加あるいは単調減少になるように設定しています。

評価対象期間（3年）中に役職が昇格した場合又は管理ポストに就いた場合は、前役職と現役職の期間や管理ポストへの就任期間を勘案し、「重み指数表②」に従って、重みを入力して下さい。

〔重み指数表 ②〕

	助手>助教授・講師	助教授・講師>教授	教授>部局長等	<の場合
教育	10～50	20～50	10～50	①を適用
研究	30～90	20～70	10～50	
社会貢献	0～30	5～50	10～50	
管理運営	0～30	5～50	10～70	

(>、<は、評価期間中におけるそれぞれの役職の期間の長短を表します。)

## 4. 「教育」の評価シート画面

画面を種類ごとに分けて説明

(1) 「学部教育」「大学院教育」の領域について

教育 | [研究](#) | [社会貢献](#) | [管理運営](#) | [その他自由記述](#)

[※教育の評価基準及び算定方法について](#)

教育の評価: 学部・大学院 両方 学部主体 大学院主体 で評価する。

2003年度～2005年度(過去3年分)

評価の領域	評価項目	件数/評価	評価指標
学部教育	ア 授業担当(学部)	10件/B	2
	イ 卒業研究指導	11件/B	
	ウ 留学生指導(学部)	0件/C	
大学院教育	エ 授業担当(大学院)	0件/C	1
	オ 博士前期課程指導	9件/B	
	カ 博士後期課程指導	3件/A	
	キ 博士論文審査(主査のみ)	0件/C	

- 「教育」の分野においては、「教員情報データベース」の該当項目を過去3年分(平成15(2003)年度～17(2005)年度)集計し、「件数/評価」の覧に表記しています。
- 評価覧のA、B、Cの基準については、「教育の評価基準及び算定について」をクリックすると確認することができます。(P44～P45にも記載)
- 「教育」の各々の項目において、教員情報データベースの情報をどのように活用しているかを右ページの備考覧にまとめています。  
※「研究」、「社会貢献」、「管理運営」も同様



	評価シートの項目	教員情報DBの項目	備 考
ア	授業担当(学部)	【教育活動】 担当授業科目 (学部)	○1科目を1件としてカウント。 ○授業回数を分担して負担している場合は、 件数を担当教員数で割った数とします。
イ	卒業研究指導	【教育活動】 卒業研究指導	ODBの「卒業研究指導者数」から引用
ウ	身体に障害を持つ 学生・留学生指導 (学部)	【国際連携・交流活動】 留学生指導  【教育活動】 指導教員 (1～3年)  【教育活動】 卒業研究指導	ODBの「国際連携・交流活動」-「留学生指導」の「学部指導数」から引用。  ○「指導教員」で「身体に障害を持つ学生」の 該当があれば、件数をカウント。  ○「卒業研究指導」で「身体に障害を持つ学 生」の該当があれば、件数をカウント。
エ	授業担当(大学院)	【教育活動】 担当授業科目 (大学院)	○1科目を1件としてカウント。 ○授業回数を分担して負担している場合は、 件数を担当教員数で割った数とします。
オ	博士前期課程指導	【教育活動】 修士論文指導	ODBの「修士論文指導者数」から引用 ○指導に留学生の該当があれば、件数を 2倍とします。 ○「身体に障害を持つ学生」の該当があ れば、2倍とします。
カ	博士後期課程指導	【教育活動】 博士論文指導	ODBの「博士論文指導数」の「課程博士」か ら引用 ○指導に留学生の該当があれば、件数を 2倍とします。 ○「身体に障害を持つ学生」の該当があ れば、2倍とします。
キ	博士論文審査	【教育活動】 博士審査	ODBの「博士審査」から引用 ○主査を1件、副査を0.5件としてカウント。

## (2) 教育の質の領域について

- 自由記述の欄は、「教員情報DBから引用」をクリックすることで「教員情報データベース」に登録した該当項目の内容を反映させることができます。  
 また、自由記載の項目については、A～Cを選択し、自己評価して下さい。  
 (A～Cを入力していない場合は、活動実績なしとして「C」と計算します。)

教育の質	ク	FD活動への参加	企画立案0件/参加1件/B	1
	ケ	教育達成目標とその妥当性		
	コ	教育達成目標の達成状況		
	サ	教育内容面での取組と改善方策		
	シ	教科書作成	2件/A	
ス	その他観点			

	評価シートの項目	教員情報DBの項目	備考
ク	FD活動への参加	【教育活動】 FD活動への参加	○DBの「FD活動への参加」の「参加」及び「企画」のいずれかをカウントします。  ○公開授業を開催した、参加した或いはシンポジウムに参加した場合などは、「参加」とし、FD委員会などで企画立案した場合を「企画」とします。
ケ	教育達成目標とその妥当性	自由記述	○記述の際は、「入力サンプルの表示」をクリックすると、記載例が参考にできます。
コ	教育達成目標の達成状況	自由記述	
サ	教育内容面での取組と改善方策	自由記述	○科目毎に記載するか、まとめて記載するかは、各先生方のご判断にお任せいたします。 ○A～Cを選択し、自己評価して下さい。
シ	教科書作成	【教育活動】 教科書執筆	DBの「教科書執筆」の1データを1件でカウント
ス	その他観点	自由記述	○記述の際は、「入力サンプルの表示」をクリックすると、記載例が参考にできます。 ○A～Cを選択し、自己評価して下さい。

### (3) 組織的な教育関係活動における貢献、その他

組織的な教育関係活動における貢献 セ	組織的教育貢献	<input type="button" value="教員情報DBから引用"/> 2 研究室の学生がデータベース開発コンテストで準優勝した。 評価: <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <a href="#">入力サンプルの表示</a>
その他 ソ	教育自己申告	<input type="button" value="教員情報DBから引用"/>  <a href="#">入力サンプルの表示</a>
「教育」の5段階評価 40		教育領域への加点点

	評価シートの項目	教員情報DBの項目	備 考
セ	組織的教育貢献	自由記述	<p>○「教員情報DBから引用」をクリックするとDBの該当項目に記載されている文章が表示されます。</p> <p>○記述の際は、「入力サンプルの表示」をクリックすると、記載例が参考にできます。</p> <p>○OA~Cを選択し、自己評価して下さい。</p>
ソ	教育自己申告	自由記述	<p>○「教員情報DBから引用」をクリックするとDBの該当項目に記載されている文章が表示されます。</p> <p>○この「教育」の領域で数値部分や項目以外また、評価項目のある部分について、特に力点をおいた箇所など、ご自分がアピールしたいことを記載することができます。</p> <p>評価側は記載内容を判断して、「教育」の領域の5段階評価(10~50)を1段階上げることがあります。</p>

#### (4) シートの選択について

教育の評価シートについては、所属部局での担当授業などを考慮して、

- ①：(学部教育、大学院教育の両方を担当)
- ②：(学部主体)
- ③：(大学院主体)

の3パターンのシートがあります。

共通講座や生命体工学研究科などの先生方で、大学院教育或いは学部教育への関与が少ない場合は、②、③のパターンを選択することができます。

#### 各パターンの評価基準について

教育の領域における(学部教育、大学院教育の両方を担当)、(学部主体)、(大学院主体)を選択した場合の評価基準を、右ページにまとめました。(P44と45を参考)

##### ①：(学部教育、大学院教育の両方を担当)

①のパターンは、学部教育、大学院教育を含めすべての項目が評価対象となります。右ページ表中右端のア～ウの項目が評価対象となります。

5段階評価は、下記のとおりです。

「教育」の5段階評価(1及び2の個数)は、

50	1: 3~4つ
40	1: 1~2つ
30	1: なし、2: 3~4つ
20	1: なし、2: 1~2つ
10	1: なし、2: なし

##### ②：(学部主体)

②のパターンは、大学院教育を評価対象としない場合です。表中の右端のアとウの項目(1-1、1-3、1-4、1-外)が評価対象となります。

##### ③：(大学院主体)

③のパターンは、学部教育を評価対象としない場合です。表中の右端のイとウの項目(1-2、1-3、1-4、1-外)が評価対象となります。

②と③での5段階評価は、下記のとおりです。

「教育」の5段階評価(1及び2の個数)は、

50	1: 2~3つ
40	1: 1つ
30	2: 2~3つ
20	2: 1つ
10	1: なし、2: なし

教育 (評価対象期間:過去3年) ①:学部教育・大学院教育両方(ア、イ、ウ) ②:学部主体(ア、ウ) ③:大学院主体(イ、ウ)

評価の種類	評価項目	A	B	C	評価指標1, 2, 3, 4
1-1学部教育	1-1-1 授業担当(学部)	12件以上 (20件以上) ※1	4~11件 (4~19件)	0~3件	1:A1つ以上 2:AなしB2つ以上 3:AなしB1つ 4:AなしBなし
	1-1-2 卒業研究指導	12件以上	1~11件	活動実績なし	
	1-1-3 身体に障害を持つ学生・留学生指導(学部)	3件以上	1~2件	活動実績なし	
1-2大学院教育	1-2-1 授業担当(大学院)	3件以上 (5件以上) ※1	1~2件 (1~4件)	活動実績なし	
	1-2-2 博士前期課程指導	12件以上 ※2	1~11件	活動実績なし	1:A1つ以上 2:AなしB2つ以上 3:AなしB1つ 4:AなしBなし
	1-2-3 博士後期課程指導	3件以上 ※2	1~2件	活動実績なし	
	1-2-4 博士論文審査	3件以上 ※3	1~2件	活動実績なし	
1-3教育の質	1-3-1 FD活動への参加	企画立案1回以上or参加2回以上	参加1回	活動実績なし	
	1-3-2 教育達成目標とその妥当性	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	
	1-3-3 教育達成目標の達成状況	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	
	1-3-4 教育内容面での取組と改善方策	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	1:A1つ以上 2:AなしB2つ以上 3:AなしB1つ 4:AなしBなし
	1-3-5 教科書作成	2件以上	1件	活動実績なし	
1-4組織的な教育関係活動における貢献	1-4-5 その他観点	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	
	1-4-1 組織的教育貢献	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	1:A 2:B 3:C
1-外	教育自己申告				

\* 学生評価の取り入れ方については、学部・研究科に委ねる。

(注) ※1 授業回数を分担して負担している場合は、件数を担当教員数で割った数とする。

※2 1-2-2博士前期課程指導、1-2-3博士後期課程指導で「身体に障害を持つ学生」、「留学生」の該当があれば、件数を2倍とする。

※3 1-2-4博士論文審査については、主査を1件、副査を0.5件とする。

5段階評価(1及び2の個数)

50	1:3~4つ	1:2~3つ	②:(学部主体)
40	1:1~2つ	1:1つ	
30	1:なし、2:3~4つ	2:2~3つ	③:(大学院主体)
20	1:なし、2:1~2つ	2:1つ	
10	1:なし、2:なし	1:なし、2:なし	



教育 | 研究 | 社会貢献 | 管理運営 | その他自由記述

※教育の評価基準及び算定方法について

教育の評価:  学部・大学院 両方  学部主体  大学院主体 で評価する。

2003年度～2005年度(過去3年分)

評価の領域	評価項目	件数/評価	評価
学部教育	授業担当(学部)	10件/B	2
	卒業研究指導	11件/B	
	留学生指導(学部)	0件/C	
大学院教育	授業担当(大学院)	0件/C	1
	博士前期課程指導	9件/B	
	博士後期課程指導	3件/A	
	博士論文審査(主査のみ)	0件/C	

教育の質	FD活動への参加 教育達成目標とその妥当性	企画立案0件/参加1件/B	1
	教育達成目標の達成状況		
	教育内容面での取組と改善方策		
	教科書作成 その他観点	2件/A	
組織的な教育関係活動における貢献	組織的教育貢献	教員情報DBから引用	2
その他	教育自己申告	教員情報DBから引用	

「教育」の5段階評価  
40

教育領域への加点

「学部教育、大学院教育の両方を担当」「学部主体」「大学院主体」のいずれかを選択して下さい。

○「学部主体」を選択したケースで「大学院教育」に該当データがあった場合、数値は該当画面に反映しますが、画面下の5段階評価(10～50)にはカウントさせません。

○「大学院主体」を選択したケースで「学部教育」に該当データがあった場合も同様です。

## 5. 「研究」の評価シート画面

- 「研究」の分野においては、「教員情報データベース」の該当項目を過去5年分（平成13(2001)年度～平成17年度(2005)年度）集計し、「件数/評価」の覧に表記しています。
- 評価覧のA、B、Cの基準については、「研究の評価基準及び算定方法について」をクリックすると確認することができます。（P46にも記載）
- 自由記述の欄は、「教員情報DBから引用」をクリックすることで「教員情報データベース」に登録した該当項目の内容を反映させることができます。

2001年度～2005年度(過去5年分)			
評価の領域	評価項目	件数/評価	
研究成果の公表	タ 査読付き学术论文 (招待論文を含める)	世界TOPレベル研究	
		0件 5件/B	
		チ 査読無し学术论文	0件/C
		ツ 査読付き国際会議論文	5件/B
		テ 口頭発表	1件/B
		ト 解説等	0件/C
		ナ 著書	3件/A
		ニ 特許	登録0件 出願/公開0件/C
		ヌ 講演	評価A 1件 評価B 1件/A
		ネ 受賞	1件/A
ノ	メディアへの発信・発表	0件/C	
研究資金	ハ 科学研究費補助金	総額 11,300,000円 件数 3件/A	
	ヒ 国からの研究資金 (科学研究費補助金を除く)		
	フ 受託研究費		
	ヘ 共同研究費		
ホ 奨学寄付金・財団等研究助成			
その他	マ 研究自己申告	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           教員情報DBから引用         </div>	
「研究」の5段階評価		研究領域への加点	
30			

ご自分の研究が「世界トップレベル」に該当する場合、論文名と掲載雑誌を記載し、件数を入れて下さい。

また、その裏付けとなるもの（例えば、サイテーションインデックス、国際会議招待実績、受賞、研究資金導入実績など）を併せて記載して下さい。

評価側は、その内容を審査する際に証拠を求めることもあります。

	評価シートの項目	教員情報DBの項目	備 考
タ	査読付き学術論文 (招待論文を含める)	・自己申告  【個別研究業績等】 ・発表論文 A	○ご自分の研究が「世界トップレベル」に該当する場合、論文名と掲載雑誌を記載し、件数を入れて下さい。 また、その裏付けとなるもの(例えば、サイテーションインデックス、国際会議招待実績、受賞、研究資金導入実績など)を併せて記載して下さい。 評価側は、その内容を審査する際に証拠を求めることもあります。  ODB の「発表論文 A」の1データを1件でカウント
チ	査読無し学術論文	【個別研究業績等】 発表論文 C <small>(査読無定期刊行物・紀要等)</small>	DB の「発表論文C」の1データを1件でカウント
ツ	査読付き国際会議論文	【個別研究業績等】 発表論文 B <small>(査読付国際会議)</small>	DB の「発表論文B」の1データを1件でカウント
テ	口頭発表	【個別研究業績等】 ・口頭発表 A <small>(国際会議(査読なし))</small>  ・口頭発表 B <small>(その他の会議(査読あり))</small>  ・口頭発表 C <small>(その他の会議(査読なし))</small>	DBの 「口頭発表A (国際会議(査読なし))」  「口頭発表B (その他の会議(査読あり))」  「口頭発表C (その他の会議(査読なし))」  の1データを1件でカウント
ト	解説等	【個別研究業績等】 解 説	DB の「解説」の1データを1件でカウント
ナ	著 書	【個別研究業績等】 著 書	DB の「著書」の1データを1件でカウント
ニ	特 許	【個別研究業績等】 特 許	DB の「特許」の1データを1件でカウント
ヌ	講 演	【個別研究業績等】 特別講演・招待講演	DBの「特別講演・招待講演」の中で  ①「開催国」が「外国」の場合 ②「全国レベルの学会」の特別講演、招待講演、基調講演 ③「地方分科会」の特別講演、招待講演、基調講演  ①、②はAとして1データを1件 ③はBとして1データを1件 で各々カウント
ネ	受 賞	【個別研究業績等】 表彰・受賞	DB の「表彰・受賞」の1データを1件でカウント
ノ	メディアへの発表、発信	【個別研究業績等】 報 道	DB の「報道」の1データを1件でカウント



	評価シートの項目	教員情報DBの項目	備 考
ハ	科学研究費補助金	【外部資金・競争的資金獲得等】 出資金事業による研究	<p>○各々の項目の各年度ごとに記載した金額を5年間分集計</p> <p>○科研など3年間で1プログラムのものについては、各年度を1件としてカウント。</p> <p>A: 総額1千万円以上 or 3件以上</p> <p>B: 件数が1～2件</p>
ヒ	国からの研究資金 (科学研究費補助金を除く)	【外部資金・競争的資金獲得等】 出資金事業による研究	
フ	受託研究費	【外部資金・競争的資金獲得等】 共同研究・受託研究	
ヘ	共同研究費	【外部資金・競争的資金獲得等】 共同研究・受託研究	
ホ	奨学寄付金・財団等 研究助成	【外部資金・競争的資金獲得等】 財団等研究助成	
マ	研究自己申告	<p>【個別研究業績等】</p> <p>・研究に関する特記事項</p> <p>【外部資金・競争的資金獲得等】</p> <p>・外部資金・競争的資金獲得等に関する特記事項</p>	<p>○「教員情報DBから引用」をクリックするとDBの該当項目に記載されている文章が表示されます。</p> <p>○この「研究」の領域で数値部分や項目以外また、評価項目のある部分について、特に力点をおいた箇所など、ご自分がアピールしたいことを記載することができます。</p> <p>評価側は記載内容を判断して、「研究」の領域の5段階評価(10～50)を1段階上げることがあります。</p>

## 6. 「社会貢献」の評価シート画面

- 「社会貢献」の分野においては、「教員情報データベース」の該当項目を過去3年分（平成15(2003)年度～17(2005)年度）集計し、「件数/評価」の覧に表記しています。
- 評価覧のA、B、Cの基準については、「社会貢献の評価基準及び算定方法について」をクリックすると確認することができます。（P47にも記載）
- 自由記述の欄は、「教員情報DBから引用」をクリックすることで「教員情報データベース」に登録した該当項目の内容を反映させることができます。

[教育](#)
[研究](#)
[社会貢献](#)
[管理運営](#)
[その他自由記述](#)

※社会貢献の評価基準及び算定方法について

2003年度～2005年度(過去3年分)

評価の領域	評価項目	件数	評価指標
学外の委員会への参画	学外委員会(定常的協力のみ)	0件	20
学会活動	定常的協力	0件	
	臨時的協力/国際会議開催	0件	
	臨時的協力/国際会議を除く学術集会開催・論文査読	2003年 日本データベース開発学会(国内学会)、当番校(主催) 1件	
社会人や小・中・高校生を対象とする教育	本学主催の講演会・セミナー等	0件	
	社会人教育等	0件	
	出前講義	1件	
その他	社会貢献自己申告	<input type="button" value="教員情報DBから引用"/> <div style="border: 1px solid gray; height: 80px; width: 100%;"></div>	

「社会貢献」の5段階評価 20	社会貢献領域への加点
--------------------	------------

	評価シートの項目	教員情報DBの項目	備 考
ミ	学外委員会	【社会貢献活動】 公的団体の委員等	DB の「公的団体の委員等」の「定常的活動」の1データを1件でカウント。
ム	定常的協力	【個別研究業績等】 学会活動	○DB の「学会活動」の「定常的活動」の1データを1件でカウント。学会名と役職名を表示。 ○単なる会員については、カウントしません。
メ	臨時的協力／国際会議開催	【個別研究業績等】 学会活動 【国際連携・交流活動】 国際会議開催	○DB の「学会活動」の「臨時的活動」の1データを1件でカウント。 また、開催学会名と役職名を表示。 ○DBの「国際会議開催」の1データを1件でカウント
モ	臨時的協力／国際会議を除く学術集会開催・論文査読	【個別研究業績等】 学会活動	○DBの「学会活動」の「臨時的活動」に該当する1データを1件でカウント。 ○開催学会と役職を表示。
ヤ	本学主催の講演会・セミナー等	【社会貢献活動】 本学主催の講演会・セミナー等	○DBの「本学主催の講演会・セミナー等」に該当する1データを1件でカウント ○講演会名や開催セミナー名を表示。
ユ	社会人教育等	【社会貢献活動】 社会人教育等	DB の「社会人教育等」の1データを1件でカウント
ヨ	出前講義	【社会貢献活動】 出前講義	DB の「出前講義」の1データを1件でカウント
ラ	社会貢献自己申告	【社会貢献活動】 社会貢献活動に関する特記事項	○「教員情報DBから引用」をクリックするとDBの該当項目に記載されている文章が表示されます。 ○この「社会貢献」の領域で、評価項目のある部分、または項目以外において、特にご自分がアピールしたい部分があれば、ここに記載することができます。  評価側は記載内容を判断して、「社会貢献」の領域の5段階評価(10～50)を1段階上げることがあります。

## 7. 「管理運営」の評価シート画面

- 「管理運営」の分野においては、「教員情報データベース」の該当項目を過去3年分（平成15(2003)年度～17(2005)年度）集計し、「件数/評価」の覧に表記しています。
- 評価覧のA、B、Cの基準については、「社会貢献の評価基準及び算定方法について」をクリックすると確認することができます。（P48にも記載）
- 自由記述の欄は、「教員情報DBから引用」をクリックすることで「教員情報データベース」に登録した該当項目の内容を反映させることができます。  
また、自由記載の項目については、A～Cを選択し、自己評価して下さい。  
(A～Cを入力していない場合は、活動実績なしとして「C」と計算します。)

教育 | 研究 | 社会貢献 | 管理運営 | 其他自由記述

※管理運営の評価基準及び算定方法について

2003年度～2005年度(過去3年分)

評価の領域	評価項目	件数/評価	評価指標
全学的組織管理運営 リ	管理運営上の責任者	教員情報DBから引用  評価: <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <a href="#">入力サンプルの表示</a>	5
	全学委員会	教員情報DBから引用  評価: <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <a href="#">入力サンプルの表示</a>	
部局組織管理運営 レ	部局委員会	教員情報DBから引用  評価: <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <a href="#">入力サンプルの表示</a>	
安全管理・衛生管理業務 ロ	安全衛生業務	  評価: <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <a href="#">入力サンプルの表示</a>	
管理運営業務に関する各種資格取得、教育修了 ワ	各種資格・教育修了	  評価: <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <a href="#">入力サンプルの表示</a>	
其他 ヲ	管理運営自己申告書	教員情報DBから引用  <a href="#">入力サンプルの表示</a>	
「管理運営」の5段階評価 10		管理運営領域への加点	

	評価シートの項目	教員情報DBの項目	備 考
リ	管理運営上の責任者	【管理運営・その他】 管理運営上の責任者	○「教員情報DBからの引用」をクリックするとDBの「管理運営上の責任者」のデータが表示されます。そこでの貢献などを自由記述してください。  ○OA～Cを選択し、自己評価して下さい。
ル	全学委員会等	【管理運営・その他】 ・経営協議会・教育研究評議会 ・全学委員会	○「教員情報DBからの引用」をクリックするとDBの「経営協議会・教育研究評議会」、「全学委員会」の各データが表示されます。そこでの貢献などを自由記述してください。  ○OA～Cを選択し、自己評価して下さい。
レ	部局委員会等	【管理運営・その他】 部局委員会	○「教員情報DBからの引用」をクリックするとDBの「部局委員会」のデータが表示されます。そこでの貢献などを自由記述して下さい。  ○OA～Cを選択し、自己評価して下さい。
ロ	安全衛生業務	DB該当なし	○記述の際は、「入力サンプルの表示」をクリックすると、記載例が参考にできます。
ワ	各種資格、教育修了	DB該当なし	○OA～Cを選択し、自己評価して下さい。
ヲ	自己申告	【管理運営・その他】 管理運営に関する特記事項	○「教員情報DBからの引用」をクリックするとDBの「管理運営に関する特記事項」のデータが表示されます。  ○この「管理運営」の領域で、評価項目のある部分、または項目以外において、特にご自分がアピールしたい部分があれば、ここに記載することができます。  評価側は記載内容を判断して、「管理運営」の領域の5段階評価(10～50)を1段階上げることがあります。



## 8. その他自由記述

「教育」、「研究」、「社会貢献」、「管理運営」の各シート欄の自由記述欄の記載が終わりましたら、「その他自由記述」の欄にご自分がアピールしたい点をご自由に記載して下さい。

また、今回の自己評価における反省点や今後の目標に関することなどについては必ず記載して下さい。

なお、「その他自由記述」欄の記載内容については、総合評価を行う際の参考とします。

評価について申請を行う場合は内容を入力・確認の上、以下のボタンをクリックしてください。  
※一旦申請すると、評価結果の通知まで変更できません。

○ウエイト設定		○チャート		以下の項目に申請理由等あれば記入して下さい。 COEのメンバーになっているため、管理運営よりは研究に重点をおきたい。
評価領域	ウエイト(%)			
教育	25 %		A.教育 10	
研究	40 %		B.研究 12	
社会貢献	20 %		C.社会貢献 4	
管理運営	15 %		D.管理運営 1.5	
合計	100%			

[ウエイト設定について](#)

※ウエイト変更後は必ず「再計算」ボタンをクリックしてください。

---

[教育](#) | [研究](#) | [社会貢献](#) | [管理運営](#) | **その他自由記述**

ご自分のアピールしたい点をご自由に記載して下さい。  
また自己評価における反省点や今後の目標に関することなどについては必ず記載して下さい。

アピールしたい点

自己評価における反省点や今後の目標

(注意！)

最新の情報を評価シートに反映させるため、

- ・ 教員情報データベースの内容を書き換えた場合
- ・ 評価シート内のデータ入力を終えた場合
- ・ 確認のため、評価申請を行う前

については、画面中部の「再計算」か上部の「保存」を必ずクリックして下さい。



評価シートの申請を行うと下記画面が表示されます。  
8月21日（月）には、評価結果を確認することができます。

## 評価システムメニュー

入力例:★★★学部 ●●●●学科 戸畑 花子 助教授



現在、評価内容に関して、審査中です。  
しばらくお待ちください。  
評価シートの確認は「評価シートの表示」ボタンをクリックします。

評価シートの表示



評価を申請された教員は、8月21日（月）から評価結果を見ることができます。

評価内容を確認する場合、P4の手順でログイン後、下記の画面から「評価シートの表示」をクリックして画面を表示させて下さい。

## 評価システムメニュー

入力例:★★★学部 ●●●●学科 戸畑 花子 助教授



操作マニュアル.pdf

評価結果は 27.5(やや改善の余地) でした。

評価者のコメント確認及び評価シートの確認は「評価シートの表示」ボタンをクリックします。

評価シートの表示

「意見の申し立て」を行う場合

以下の「意見申し立て」ボタンをクリックしウエイトを入力してください。

意見の申し立て

下記のような評価結果を記載した画面が表示されますので、各領域の評価内容を確認して下さい。

評価シート

入力例:★★★学部 ●●●●学科 戸畑 花子 助教授

評価側が加点をした場合、その内容が表示されます。

評価側のコメントが掲載されています。

評価結果

総合評価:27.5(やや改善の余地)

指示・伝達事項:

○COEの○○として活躍されており、引き続き、その研究成果に期待しています。

○教育の部分で、大学院の授業担当をされてはいかがでしょうか。

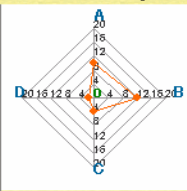
○授業アンケートの結果にも記載がりましたが、学生の理解度をよく把握して、小テストを実施するなど、工夫をされてはいかがでしょうか。

領域	加点前 点数	加点後 点数	ウエイト 後 点数	総合評価への 加点
A教育	40	40	10	0
B研究	30	30	12	
C社会貢献	20	20	4	
D管理運営	10	10	1.5	

○ウエイト設定

評価領域	ウエイト(%)
教育	25%
研究	40%
社会貢献	20%
管理運営	15%
合計	100%

○チャート



- A.教育 10
- B.研究 12
- C.社会貢献 4
- D.管理運営 1.5

以下の項目に申請理由等あれば記入して下さい。

意見の申し立て [申請者からの申請理由等](#)

教育 | [研究](#) | [社会貢献](#) | [管理運営](#) | [その他自由記述](#)

教育の評価:学部・大学院 両方 で評価する。  
2003年度～2005年度(過去3年分)

評価の領域	評価項目	件数/評価	評価指標
学部教育	授業担当(学部)	10件/B	2
	卒業研究指導	11件/B	
	留学生指導(学部)	0件/C	
大学院教育	授業担当(大学院)	0件/C	1
	博士前期課程指導	9件/B	
	博士後期課程指導	3件/A	
	博士論文審査(主査のみ)	0件/C	
教育の質	FD活動への参加	企画立案0件/参加1件/B	1
	教育達成目標とその妥当性	教育達成目標が社会ニーズに必ずしも沿ってはいないと考えられるので、現場視察の回数を増加させる改善策を考えており、次年度には改善策を実施する計画である。 評価:A	
	教育達成目標の達成状況	学生の理解は十分と考えており、授業アンケートの○○という結果もこのことを裏付けている。  評価をAをBにする。 (理由) 授業アンケートの結果は、学生からの不満の記載も多く見受けられる。 評価:B	
	教育内容面での取組と改善方策	パワーポイントなどの視聴覚教材を活用しており、学生の○○という反応を見てもこれが有効に機能していることが伺える。パワーポイントファイルを作成する上で、○○という工夫をしている。 評価:A	
	教科書作成	2件/A	
	その他観点		評価:C

自己評価の内容に対して、意見や変更があった場合は、そのコメントが掲載されています。

評価結果に対して、「意見の申し立て」がある場合は、下記画面の「意見の申し立て」をクリックして下さい。

## 評価システムメニュー

入力例:★★★学部 ●●●●学科 戸畑 花子 助教授



評価結果は 27.5(やや改善の余地) でした。

評価者のコメント確認及び評価シートの確認は「評価シートの表示」ボタンをクリックします。

評価シートの表示

「意見の申し立て」を行う場合

以下の「意見申し立て」ボタンをクリックしウエイトを入力してください。

意見の申し立て



下記のような画面が表示されます。意見の申し立てがある場合は、枠内に内容を記載して下さい。

入力を終えましたら、「意見の申し立てを行う」をクリックして下さい。確認画面が表示されますので、よろしければ、「OK」を押して下さい。

意見の申し立ての期間は、8月21日(月)～9月4日(月)までです。

✕ 閉じる
📄 保存

### 評価シート

入力例:★★★学部 ●●●●学科 戸畑 花子 助教授

**評価結果**

総合評価:27.5(やや改善の余地)

**指示・伝達事項:**  
 ○OOEの○○として活躍されており、引き続き、その研究成果に期待しています。  
 ○教育の部分で、大学院の授業担当をされてはいかがでしょうか。  
 ○授業アンケートの結果にも記載がありましたが、学生の理解度をよく把握して、小テストを実施するなど、工夫をされてはどうか。

領域	加点前 点数	加点后 点数	ウエイト 後 点数	総合評価への 加算
A.教育	40	40	10	0
B.研究	30	30	12	
C.社会貢献	20	20	4	
D.管理運営	10	10	1.5	

評価について意見の申し立てを行う場合は内容を入力・確認の上、以下のボタンをクリックしてください。

意見の申し立てを行う

○ウエイト設定

評価領域	ウエイト(%)
教育	25%
研究	40%
社会貢献	20%
管理運営	15%
合計	100%

[ウエイト設定について](#)

○チャート

A.教育 10  
B.研究 12  
C.社会貢献 4  
D.管理運営 1.5

以下の項目に意見の申し立て等あれば追加記入してください。

意見の申し立て内容

申請者からの申請理由等

授業アンケートの評価結果で○○の良い部分が評価されていません。

※ウエイト変更後は必ず「再計算」ボタンをクリックしてください。

再計算

意見の申し立てを行う場合ここをクリックして下さい。確認画面が表示されます。

意見の申し立てがある場合は、枠内に記載して下さい。

ウエイト設定の変更がある場合は、ここを修正し、理由も枠内に記載して下さい。

「意見の申し立てを行う」を実施すると下記画面になります。

### 評価システムメニュー

入力例:★★★学部 ●●●●学科 戸畑 花子 助教授

操作マニュアル.pdf

現在、申し立て内容に関して、審査中です。  
しばらくお待ちください。

評価シートの確認は「評価シートの表示」ボタンをクリックします。

評価シートの表示

意見の申し立て後の最終評価結果は、10月6日(金)以降に確認することができます。

意見の申し立てを申請した教員は、10月6日（金）以降に最終評価結果を確認することができます。ログインし、下記の画面から「評価シートの表示」をクリックして下さい。

## 評価システムメニュー

入力例: ★★★学部 ●●●●学科 戸畑 花子 助教授



操作マニュアル.pdf

評価結果は 27.5(やや改善の余地) でした。

評価シートの確認は「評価シートの表示」ボタンをクリックします。

評価シートの表示

意見の申し立てに対する回答が表示されます。

× 閉じる

### 評価シート

入力例:★★★学部 ●●●●学科 戸畑 花子 助教授

#### 評価結果

総合評価:27.5(やや改善の余地)

領域	加点前 点数	加点後 点数	ウエイト 後 点数	総合評価への 加点
A.教育	40	40	10	0
B.研究	30	30	12	
C.社会貢献	20	20	4	
D.管理運営	10	10	1.5	

評価内容: 申し立てに関する回答

アンケートの良い結果の部分は、評価します。しかし、学生からの意見で、進み具合が早く、よくわからないまま授業が終わってしまったとの意見が多いため、改善はすべきだという意味でコメントを出しました。

意見の申し立てに対するコメントが表示されます。「評価内容」をクリックすると、最初の評価のコメントを確認することができます。

評価領域	ウエイト(%)
教育	25%
研究	40%
社会貢献	20%
管理運営	15%
合計	100%

○チャート

A.教育 10  
B.研究 12  
C.社会貢献 4  
D.管理運営 1.5

意見の申し立て内容  
授業アンケートの評価結果で○○の良い部分が評価されていません。

申請者からの申請理由等

意見申し立ての内容を青字で表示しています。「申請者からの申請理由等」をクリックすると申請時の内容を確認することができます。

教育 | 研究 | 社会貢献 | 管理運営 | その他自由記述

教育の評価:学部・大学院 両方で評価する。  
2003年度~2005年度(過去3年分)

評価の領域	評価項目	件数/評価	評価指標
学部教育	授業担当(学部)	10件/B	2
	卒業研究指導	11件/B	
	留学生指導(学部)	0件/C	
大学院教育	授業担当(大学院)	0件/C	1
	博士前期課程指導	9件/B	

意見の申し立てを行った内容は、青字で記載しています。

評価側のコメントは、「申し立てに関する回答」内に記載していますので、ここを確認して下さい。

# 評価者側の 評価シートマニュアル

P 3 4 ~ P 4 1 は、教員が申請した評価シートについて、評価者側が評価する際に使用するシステムのマニュアルになります。



### 13. 申請されたシートの評価について

7/ 3 ~ 8/21

部局長等は、7月3日（月）～8月21日（月）の期間、教員から申請のあった評価シートの内容について、評価を実施していきます。

評価側の部局長等は、P4のログインを行うと下記のような管理者メニューが表示されます。

入力例：の戸畑花子先生を表示させるため、「入力例：★★★学部●●●●学科」をクリックし、戸畑花子先生をクリックします。

#### 評価システムメニュー

入力例：★★★学部 ●●●●学科 九工大 太郎 教授



操作マニュアル.pdf

評価シートの編集を行うには以下の「評価シートの編集」ボタンをクリックし、各項目を入力してください。

評価シートの編集

#### 管理者メニュー

以下の内容を確認の上、承認作業を行ってください。

[工学部 機械知能工学科](#)  
[工学部 建設社会工学科](#)  
[工学部 電気工学科](#)  
[工学部 物質工学科](#)  
[工学部 共通講座](#)  
[情報工学部 知能情報工学科](#)  
[情報工学部 電子情報工学科](#)  
[情報工学部 システム創成情報工学科](#)  
[情報工学部 機械情報工学科](#)  
[情報工学部 生命情報工学科](#)  
[情報工学部 共通講座](#)  
[工学研究科 機能システム創成工学専攻](#)  
[情報工学研究科 情報創成工学専攻](#)  
[生命体工学研究科 生体機能専攻](#)  
[生命体工学研究科 脳情報専攻](#)  
入力例：★★★学部 ●●●●学科

ここをクリックして下さい。

#### 評価システムメニュー

入力例：★★★学部 ●●●●学科 九工大 太郎 教授



操作マニュアル.pdf

評価シートの編集を行うには以下の「評価シートの編集」ボタンをクリックし、各項目を入力してください。

評価シートの編集

#### 管理者メニュー

以下の内容を確認の上、承認作業を行ってください。

[工学部 機械知能工学科](#)  
[工学部 建設社会工学科](#)  
[工学部 電気工学科](#)  
[工学部 物質工学科](#)  
[工学部 共通講座](#)  
[情報工学部 知能情報工学科](#)  
[情報工学部 電子情報工学科](#)  
[情報工学部 システム創成情報工学科](#)  
[情報工学部 機械情報工学科](#)  
[情報工学部 生命情報工学科](#)  
[情報工学部 共通講座](#)  
[工学研究科 機能システム創成工学専攻](#)  
[情報工学研究科 情報創成工学専攻](#)  
[生命体工学研究科 生体機能専攻](#)  
[生命体工学研究科 脳情報専攻](#)  
入力例：★★★学部 ●●●●学科

九工大 太郎 教授 入力中  
戸畑 花子 助教授 申請中  
該当者数:2  
※申請内容をCSVでダウンロード

戸畑花子先生をクリックして下さい。



戸畑花子先生をクリックすると、下記画面が開き、この先生の申請内容を確認することができます。

(現在は、総合評価：35.5で(良好)となっています)

× 閉じる 保存

評価シート

入力例: ★★学部 ●●●●学科 戸畑 花子 助教授

**評価結果**

総合評価: 35.5(良好)

指示・伝達事項:

領域	加点前 点数	加点後 点数	ウエイト 後 点数	総合評価への 加点
A.教育	40	40	10	0
B.研究	50	50	20	
C.社会貢献	20	20	4	
D.管理運営	10	10	1.5	

再計算

指示・伝達事項及び自由記載欄の評価を行います。  
評価完了後「評価完了」ボタンをクリックしてください。

評価完了 差し戻し

○ウエイト設定

評価領域	ウエイト(%)
教育	25%
研究	40%
社会貢献	20%
管理運営	15%
合計	100%

ウエイト設定について

○チャート

A.教育 10  
B.研究 20  
C.社会貢献 4  
D.管理運営 1.5

申請者からの申請理由等。  
COEのメンバーになっているため、管理運営よりは研究に重点をおきたい。

重みの申請理由を青字で表示しています。

※ウエイト変更後は必ず「再計算」ボタンをクリックしてください。

再計算

教育 | 研究 | 社会貢献 | 管理運営 | その他自由記述

※教育の評価基準及び算定方法について

教育の評価:  学部・大学院 両方  学部主体  大学院主体 で評価する。

2003年度～2005年度(過去3年分)

評価の領域	評価項目	件数/評価	評価指標
学部教育	授業担当(学部)	10件/B	2
	卒業研究指導	11件/B	
	留学生指導(学部)	0件/C	
大学院教育	授業担当(大学院)	0件/C	1
	博士前期課程指導	9件/B	
	博士後期課程指導	3件/A	
	博士論文審査(主査のみ)	0件/C	

教育の質

評価項目	内容	評価
FD活動への参加	企画立案0件/参加1件/B	1
教育達成目標とその妥当性	教育達成目標が社会ニーズに必ずしも沿っていないと考えられるので、現場視察の回数を増加させる改善案を考えており、次年度には改善案を実施する計画である。	評価: <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C 入力サンプルの表示
教育達成目標の達成状況	学生の理解は十分と考えており、授業アンケートの○○という結果もこのことを裏付けている。	評価: <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C 入力サンプルの表示
教育内容面での取組と改善方策	パワーポイントなどの視聴覚教材を活用しており、学生の○○という反応を見てもこれが有効に機能していることが伺える。パワーポイントファイルを作成する上で、○○という工夫をしている。	評価: <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C

「教育」の領域では、所属部局の授業担当などを考慮した3つのパターンがあります。

(学部主体)を選択した場合でも、大学院教育にデータがあれば、参考まで表示しますが、領域としての5段階評価には加算しません。

((大学院主体)のケースも同様です)

評価側は、申請者とは異なるパターンを押し、「再計算」をクリックすると別のパターンの内容を確認することができます。

(1) 評価の記載について

画面下部の申請者が記載した自由記述欄を評価して下さい。

本人の自己評価に対して、意見がある場合や評価を変更する場合は、枠内にその旨を記載して下さい。

[再計算](#)

教育 | [研究](#) | [社会貢献](#) | [管理運営](#) | [その他自由記述](#)

[※教育の評価基準及び算定方法について](#)

教育の評価:  学部・大学院 両方  学部主体  大学院主体 で評価する。

2003年度～2005年度(過去3年分)

評価の領域	評価項目	件数/評価	評価指標
学部教育	授業担当(学部)	10件/B	2
	卒業研究指導	11件/B	
	留学生指導(学部)	0件/C	
大学院教育	授業担当(大学院)	0件/C	1
	博士前期課程指導	9件/B	
	博士後期課程指導	3件/A	
	博士論文審査(主査のみ)	0件/C	

教育の質

FD活動への参加	企画立案0件/参加11件/B	1
教育達成目標とその妥当性	教育達成目標が社会ニーズに必ずしも沿っていないと考えられるので、現場視察の回数を増加させる改善策を考えており、次年度には改善策を実施する計画である。	評価: <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <a href="#">入力サンプルの表示</a>
教育達成目標の達成状況	学生の理解は十分と考えており、授業アンケートの○○という結果もこのことを裏付けている。 評価をAをBにする。 (理由) 授業アンケートの結果は、学生からの不満の記載も多く見受けられる。	評価: <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <a href="#">入力サンプルの表示</a>
教育内容面での取組と改善方策	パワーポイントなどの視聴覚教材を活用しており、学生の○○という反応を見てもこれが有効に機能していることが伺える。パワーポイントファイルを作成する上で、○○という工夫をしている。	

自己評価内容に意見がある場合や評価を変更する場合は、理由などを記載して下さい。

評価のA～Cを変更する場合は、ココも変更して下さい。  
変更した場合は、必ず、上の「再計算」をクリックして下さい

(注意！)

評価シート内の計算式を反映させるため、評価を変更する場合は、必ず、「再計算」か「保存」を必ずクリックして下さい。



(2) 各領域の自己申告部分を評価し、加点する場合

評価シートにデータベースから自動的に取り込んだ項目及び自由記述で評価する項目以外に各領域には、「その他」の「自己申告」の項目があります。各領域で評価項目のある部分、または項目以外において、特にご自分がアピールしたい部分があれば、ここに記載があります。

また、評価側は記載内容を判断して、加点する(各領域の5段階評価(10~50)を1段階上げる)ことができます。

(例:「研究」の画面)

研究資金	科学研究費補助金 国からの研究資金 (科学研究費補助金を除く) 受託研究費 共同研究費 奨学寄付金・財団等研究助成	総額 11,300,000円 件数 3件/A
その他	研究自己申告 教員情報DBから引用 COEの研究において、○○の成果については、○○支援を行い貢献した。	

「研究」の5段階評価 30

研究領域への加点  する

加点する(5段階評価(10~50)を1段階上げる)場合、チェックを入れて下さい。

加点された場合は、「指示・伝達事項」にその理由を記載して下さい。(P 38)

修正されたシートの内容を保存する場合、この「保存」をクリックして下さい。

評価シート  
入力: ★★学部 ●●●●学科 戸畑 花子 助教授

総合評価: 31.5(良好)

指示・伝達事項:  
○研究の領域で加点しました。COEの○○として活躍されており、引き続き、その研究成果に期待しています。  
○教育の部分で、大学院の授業担当をされてははいかがでしょうか。  
○授業アンケートの結果にも記載がありましたが、学生の理解度をよく把握して、小テストを実施するなど、工夫をされてはどうでしょうか。

領域	加点前点数	加点後点数	ウェイト後点数	総合評価への加点
A教育	40	40	10	<input type="checkbox"/> する
B研究	30	40	16	
C社会貢献	20	20	4	
D管理運営	10	10	1.5	

再計算

加点した場合、その理由を「指示・伝達事項」に記載下さい。

加点した場合、「再計算」をクリックして下さい。  
左の加点の画面に内容が反映します。

(例) 「研究」の領域で加点したので、「B研究」は“加点前点数 30”に対して“加点後点数 40”となりました。

指示・伝達事項及び自由記載欄の評価を行います。評価完了後「評価完了」ボタンをクリックしてください。

評価完了 差し戻し

○ウェイト設定

評価領域	ウェイト(%)
教育	25%
研究	40%
社会貢献	20%
管理運営	15%
合計	100%

ウエイト設定について

○チャート

領域	点数
A.教育	10
B.研究	12
C.社会貢献	4
D.管理運営	1.5

申請者からの申請理由等。  
COEのメンバーになっているため、管理運営よりは研究に重点をおきたい。

(3) 「研究」のシートについて

研究のシートにおいて、「世界TOPレベル研究」の欄に論文等の記載があった場合は、申請理由をご判断の上（場合によっては、証明を求めることも考えられます）、非該当であれば、その旨理由をご記入の上、件数を減らして下さい。

件数を減らした場合は、計算式を反映させるため、必ず、「再計算」か「保存」をクリックして下さい。

合計 100%

[ウエイト設定について](#)

※ウエイト変更後は必ず「再計算」ボタンをクリックしてください。

再計算

教育 研究 社会貢献 管理運営 その他自由記述

[※研究の評価基準及び算定方法について](#)

2001年度～2005年度(過去5年分)

評価の領域	評価項目	件数/評価	
研究成果の公表	査読付き学术论文 (招待論文を含める)	世界TOPレベル研究 Kyukodai evaluation DB system Taro Kyukodai, Hanako Tobata、Future、Vol.12 No.54、pp.33-36(2001.9) Futureでは世界トップレベルとは言えない。	
		0件 5件/B	
	査読無し学术论文	0件/C	
	査読付き国際会議論文	5件/B	
	口頭発表	1件/B	
	解説等	0件/C	
	著書	3件/A	
	特許	登録0件 出願/公開0件/C	
	講演	評価A 1件 評価B 1件/A	
	受賞	1件/A	
	メディアへの発信・発表	0件/C	
	研究資金	科学研究費補助金	総額 11,300,000円 件数 3件/A
		国からの研究資金 (科学研究費補助金を除く)	
受託研究費			
共同研究費			
奨学寄付金・財団等研究助成			

件数を減らした場合は、必ず「再計算」か「保存」をクリックして下さい。

世界 TPO レベルでないと判断される場合は、その理由をご記載下さい。



(4) 4段階評価（複合評価）に加点する場合

「教育」、「研究」、「社会貢献」、「管理運営」の結果も踏まえ、「その他自由記述」のシートの記載内容も参考にして、評価側は、最終的な4段階評価（複合評価）に加点する（4段階評価を1段階上げる）ことができます。

修正されたシートの内容を保存する場合、この「保存」をクリックして下さい。

閉じる 保存

### 評価シート

入力例:★★★学部 ●●●●学科 戸畑 花子 助教授

#### 評価結果

総合評価:40(最良)

指示・伝達事項:  
 研究の領域で加点しました。COEの○○として活躍されており、引き続き、その研究成果に期待しています。  
 COEの○○の役割は大きい研究成果に貢献したため、総合評価に加点しました。  
 教育の部分で、大学院の授業担当をされてはいかがでしょう。  
 授業アンケートの結果にも記載がありましたが、学生の理解度をよく把握して、小テストを実施するなど、工夫を

領域	加点前 点数	加点後 点数	ウエイト 後 点数	総合評価への 加点
A.教育	40	50	12.5	<input checked="" type="checkbox"/> する
B.研究	30	40	16	
C.社会貢献	20	30	6	
D.管理運営	10	20	3	

再計算

加点する場合、「する」にチェックを入れ、再計算をクリックして下さい。

指示・伝達事項及び自由記載欄の評価を行います。評価完了後「評価完了」ボタンをクリックして下さい。

評価完了 差し戻し

加点された場合は、指示・伝達事項にその理由を記載して下さい。(P 40)

(例) 総合評価の点数は、“37.5(良好)”でしたが、加点で1段階上がったため、“40(最良)”となりました。

○ウエイト設定

評価領域	ウエイト(%)
教育	25 %
研究	40 %
社会貢献	20 %
管理運営	15 %
合計	100%

ウエイト設定について

○チャート

A.教育 10  
 B.研究 12  
 C.社会貢献 4  
 D.管理運営 1.5

申請者からの申請理由等。  
 COEのメンバーになっているため、管理運営よりは研究に重点をおきたい。

※ウエイト変更後は必ず「再計算」ボタンをクリックして下さい。

再計算

教育 | 研究 | 社会貢献 | 管理運営 | その他自由記述

ご自分のアピールしたい点をご自由に記載して下さい。  
 また自己評価における反省点や今後の目標に関することなどについては必ず記載して下さい。

アピールしたい点

COEメンバーになり、他分野の先生方と協力のもと、○○解析の基礎となる○○データベースの作成に携われたことは、大変有意義であった。

自己評価における反省点や今後の目標

もう少し、研究テーマである○○○におけるデータ解析について、論文発表を増やしたい。また、来年には、○○大学の○○プロジェクトにも参加し、○○の可能性についての研究に励みたい。





## 14. 意見の申し立ての内容を検討

9/ 5~10/ 5

評価側は、9月 5日（火）～10月5日（木）の期間において、教員から申請のあった意見の申し立ての内容を検討します。

P34の「13. 申請されたシートの評価方法」と同じように画面を開き、意見の申し立てのあった教員をクリックし、該当教員の意見の申し立て内容を確認します。

申請者からの意見の申し立ての内容が表示されます。

申し立てについて、コメントを記載する場合、ここをクリックして下さい。

**評価シート**  
入力例:★★★学部 ●●●●学科 戸畑 花子 助教授

**評価結果**  
総合評価:27.5(やや改善の余地)

評価内容 申し立てに関する回答

OCOEの〇〇として活躍されており、引き続き、その研究成果に期待しています。

○教育の部分で、大学院の授業担当をされてはいかがでしょう。

○授業アンケートの結果にも記載がありましたが、学生の理解度をよく把握して、小テストを実施するなど、工夫をされてはどうでしょうか。

評価者点数加点

領域	加点前 点数	加点後 点数	ウエイト 後 点数	総合評価への 加点
A教育	40	40	10	0
B研究	30	30	12	
C社会貢献	20	20	4	
D管理運営	10	10	1.5	

再計算

指示・伝達事項及び自由記載欄の評価を行います。  
評価完了後「評価完了」ボタンをクリックしてください。

評価完了 差し戻し

申し立ての意見に対してコメントを出す場合は、白の枠内に記載して下さい。

コメントを記載されて、シートの内容を保存する場合、この「保存」をクリックして下さい。

**評価シート**  
入力例:★★★学部 ●●●●学科 戸畑 花子 助教授

**評価結果**  
総合評価:27.5(やや改善の余地)

評価内容 申し立てに関する回答

アンケートの良い結果の部分は、評価します。しかし、学生からの意見で、進み具合が早く、よくわからないまま授業が終わってしまったとの意見が多いため、改善はすべきだという意味でコメントを出しました。

評価者点数加点

領域	加点前 点数	加点後 点数	ウエイト 後 点数	総合評価への 加点
A教育	40	40	10	0
B研究	30	30	12	
C社会貢献	20	20	4	
D管理運営	10	10	1.5	

再計算

指示・伝達事項及び自由記載欄の評価を行います。  
評価完了後「評価完了」ボタンをクリックしてください。

評価完了 差し戻し

記載が終わりましたら、「評価完了」をクリックして下さい。

(10月5日(木)までに実施して下さい)

## 資 料

評価の際に資料として、

- 「教育職員評価方法」及び「教育」、「研究」、「社会貢献」、管理運営」の評価基準と算定方法をP 4 3～P 4 8に記載していますので、ご参照下さい。
  
- 各種類の自由記述部分について、入力の際の記入サンプルをP 5 0から記載していますので、ご参照ください。  
なお、評価シートの「入力サンプルの表示」と同じ内容です。

# 教育職員評価方法

<評価方法>

## (1) 領域別評価

教育	評価項目ごとに該当する水準(A、B、C)を選択し、これに基づいて評価の種類ごとに評価指標(1、2、3)を選択。評価指標1、2の数に応じた、5段階評価を決定。
研究	評価項目ごとに該当する水準(A、B、C)を選択。評価項目2-1-1査読付き定期刊行物、2-2研究資金の水準と、その他の評価項目の水準と数に応じて5段階評価を決定。
社会貢献	評価項目に該当する活動実績数の総数に応じて5段階評価を決定。
管理運営	評価項目に該当する活動実績の水準(A、B、C)と数に応じて5段階評価を決定。

※ 自由記述項目の評価により5段階評価を上げることができる。

## (2) 複合評価

評価の際に併せて申告した重みに基づき、各評価の領域の5段階評価の重み付き和を算出。これに応じて、4段階評価を決定。その他自由記述の評価により4段階評価を上げることができる。

<4段階評価>

1 最良	40以上	50まで
2 良好	30以上	40未満
3 やや問題があり改善の余地がある	20以上	30未満
4 問題があり改善を要する	10以上	20未満

教育（評価対象期間：過去3年）

評価の種類	評価項目	A	B	C	評価指標1, 2, 3
1-1学部教育	1-1-1 授業担当(学部)	12件以上 ※1	4～11件	0～3件	1:A1つ以上 2:AなしB2つ以上 3:AなしB1つ以下
	1-1-2 卒業研究指導	12件以上	1～11件	活動実績なし	
	1-1-3 身体に障害を持つ学生・留学生指導(学部)	3件以上	1～2件	活動実績なし	
1-2大学院教育	1-2-1 授業担当(大学院)	3件以上 ※1	1～2件	活動実績なし	
	1-2-2 博士前期課程指導	12件以上 ※2	1～11件	活動実績なし	1:A1つ以上 2:AなしB2つ以上 3:AなしB1つ以下
	1-2-3 博士後期課程指導	3件以上 ※2	1～2件	活動実績なし	
1-3教育の質	1-2-4 博士論文審査	3件以上 ※3	1～2件	活動実績なし	
	1-3-1 FD活動への参加	企画立案1回以上or参加2回以上	参加1回	活動実績なし	
	1-3-2 教育達成目標とその妥当性	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	
1-4組織的な教育関係活動における貢献	1-3-3 教育達成目標の達成状況	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	1:A1つ以上 2:AなしB2つ以上 3:AなしB1つ以下
	1-3-4 教育内容面での取組と改善方策	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	
	1-3-5 教科書作成	2件以上	1件	活動実績なし	
1-外	1-3-5 その他観点	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	
	1-4-1 組織的教育貢献	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	1:A 2:B 3:C
1-外	教育自己申告				

\* 学生評価の取り入れ方については、学部・研究科に委ねる。

(注) ※1 授業回数を担当して負担している場合は、件数を担当教員数で割った数とする。

※2 1-2-2博士前期課程指導、1-2-3博士後期課程指導で「身体に障害を持つ学生」、「留学生」の該当があれば、件数を2倍とする。

※3 1-2-4博士論文審査については、主査を1件、副査を0.5件とする。

5段階評価(1及び2の個数)

50	1:3～4つ
40	1:1～2つ
30	1:なし, 2:3～4つ
20	1:なし, 2:1～2つ
10	1:なし, 2:なし



教育 (評価対象期間:過去3年) 学部主体(ア、ウ) 大学院主体(イ、ウ)

評価の種類	評価項目	A	B	C	評価指標1, 2, 3
1-1学部教育	1-1-1 授業担当(学部)	20件以上	4~19件	0~3件	1:A1つ以上 2:AなしB2つ以上 3:AなしB1つ以下
	1-1-2 卒業研究指導	※1 12件以上	1~11件	活動実績なし	
	1-1-3 身体に障害を持つ学生・留学生指導(学部)	3件以上	1~2件	活動実績なし	
	1-2大学院教育	5件以上	1~4件	活動実績なし	
1-2大学院教育	1-2-1 授業担当(大学院)	※1			
	1-2-2 博士前期課程指導	※2 12件以上	1~11件	活動実績なし	1:A1つ以上 2:AなしB2つ以上 3:AなしB1つ以下
	1-2-3 博士後期課程指導	※2 3件以上	1~2件	活動実績なし	
	1-2-4 博士論文審査	※3 3件以上	1~2件	活動実績なし	
1-3教育の質	1-3-1 FD活動への参加	企画立案1回以上or参加2回以上	参加1回	活動実績なし	
	1-3-2 教育達成目標とその妥当性	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	
	1-3-3 教育達成目標の達成状況	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	1:A1つ以上 2:AなしB2つ以上 3:AなしB1つ以下
	1-3-4 教育内容面での取組と改善方策	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	
	1-3-5 教科書作成	2件以上	1件	活動実績なし	
1-4組織的な教育関係活動における貢献	1-4-1 組織的教育貢献	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	1:A 2:B 3:C
	1-外 教育自己申告				

\* 学生評価の取り入れ方については、学部・研究科に委ねる。

(注) ※1 授業回数を分担して負担している場合は、件数を担当教員数で割った数とする。

※2 1-2-2博士前期課程指導、1-2-3博士後期課程指導で「身体に障害を持つ学生」、「留学生」の該当があれば、件数を2倍とする。

※3 1-2-4博士論文審査については、主査を1件、副査を0.5件とする。

5段階評価(1及び2の個数)

50	1:2~3つ
40	1:1つ
30	2:2~3つ
20	2:1つ
10	1:なし, 2:なし

研究 (評価対象期間:過去5年)

評価の種類	評価項目	A	B	C
2-1 研究成果の公表	2-1-1 査読付き学術論文 (招待論文を含める)	世界トップレベル1件以上 or 全論文数6件以上	全論文数1~5件	活動実績なし
	2-1-2 査読無し学術論文	14件以上	1~13件	活動実績なし
	2-1-3 査読付き国際会議論文	9件以上	1~8件	活動実績なし
	2-1-4 口頭発表	23件以上	1~22件	活動実績なし
	2-1-5 解説等	4件以上	1~3件	活動実績なし
	2-1-6 著書	2件以上	1件	活動実績なし
	2-1-7 特許	登録1件以上	公開・出願1件以上	活動実績なし
	2-1-8 講演	外国又は全国レベル学会主催の特別講演・招待講演・基調講演 1件以上	地方レベル分科会の特別講演・基調講演 1件以上	活動実績なし
	2-1-9 受賞	1件以上	—	活動実績なし
	2-1-10 メディアへの発信・発表	2件以上	1件	活動実績なし
2-2 研究資金	2-2-1 科学研究費補助金	総額1千万円以上 or 3件以上	1~2件	活動実績なし
	2-2-2 国からの研究資金(科学研究費補助金を除く)			活動実績なし
	2-2-3 受託研究費			活動実績なし
	2-2-4 共同研究費			活動実績なし
	2-2-5 奨学寄付金・財団等研究助成			活動実績なし
2-外	研究自己申告			活動実績なし

5段階評価(水準を上回っている個数)

50	2-1-1と2-2で水準Aの場合 2-1-1で全論文数16件以上の場合 2-1-1又は2-2で水準Aを満たし、かつ、2-1-2から2-1-10で水準Aに4つ以上該当する場合
40	2-1-1で全論文数11~15件の場合 2-1-1又は2-2で水準Aを満たし、かつ、2-1-2から2-1-10で水準A又は水準Bに4つ以上該当する場合
30	2-1-1又は2-2で水準A又は水準Bを満たし、かつ、2-1-2から2-1-10で水準A又は水準Bに2つ以上該当する場合
20	2-1-1又は2-2で水準A又は水準Bを満たす場合。あるいは、2-1-2から2-1-10で水準A又は水準Bに2つ以上該当する場合。
10	上記以外

社会貢献 (評価対象期間:過去3年)

評価の種類	評価項目	備考
3-1 学外の委員会への 参画	3-1-1 学外委員会	定常的協力のみの出力。 委員名や役職別の記載があれば表示。
	3-2-1 定常的協力	
	3-2-2 臨時的協力1 / 国際会議開催	
3-2 学会活動	3-2-3 臨時的協力2 / 国際会議を除く学術集会開催・論文査読	臨時的協力 & 国内学会のデータ件数は出力。「論文査読」などの役割を表示する。
	3-3-1 本学主催の講演会・セミナー等	
	3-3-2 社会人教育等	
3-3 社会人や小・中・高 校生を対象とする教育 活動	3-3-3 出前講義	
	3-外 社会貢献自己申告	

5段階評価(該当する個数)

50	13件以上
40	12~7件
30	6~4件
20	3~1件
10	0件

管理運営 (評価対象期間:過去3年)

評価の種類	評価項目		A	B	C	備考
	4-1-1	管理運営上の責任者				
4-1 全学組織管理運営	4-1-1	管理運営上の責任者	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	記載内容の判断基準
	4-1-2	全学委員会等	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	記載内容の判断基準
4-2 部局組織管理運営	4-2-1	部局委員会等	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	記載内容の判断基準
4-3 安全管理・衛生管理	4-3-1	安全衛生業務	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	記載内容の判断基準
4-4 管理運営業務に関する各種資格取得、教 4-外	4-4-1	各種資格・教育修了 管理運営自己申告	サンプル提示	サンプル提示	活動実績なし	記載内容の判断基準

5段階評価(水準を上回っている個数)

50	水準Aに該当する活動実績が2件以上ある場合
40	水準Aに該当する活動実績が1件ある場合
30	水準Bに該当する活動実績が2件以上ある場合
20	水準Bに該当する活動実績が1件ある場合
10	評価項目に該当する活動実績が一切ない場合





## 自由記述部分の入力サンプルについて

(記号はマニュアル内に記載したものを参照)

ここに示したのはあくまでも例示です。したがって、サンプル例のとおり記載すれば必ず評価が良くなるものではありません。

### ケ：教育達成目標とその妥当性

- ・教育達成目標が〇〇という学科・専攻の教育理念に沿っている。  
〇〇という理由で学生にとって妥当である。  
〇〇という理由で社会にとって妥当である。
- ・教育達成目標が社会ニーズに必ずしも沿っていないと考えられるので、〇〇という改善策を考えており、次年度には改善策を実施する計画である。

### コ：教育達成目標の達成状況

- ・学生の理解は十分と考えており、授業アンケートの〇〇という結果もこのことを裏付けている。
- ・学生の理解は十分と考えているが、授業アンケートには必ずしもそうでない〇〇という記述も含まれている。この部分に関しては、〇〇という改善策を考えており、次年度には改善策を実施する計画である。

### サ：教育内容面での取組と改善方策

- ・授業内容はたとえば〇〇という改良を毎年加えており、〇〇という理由で教育目標達成に必要なかつ十分と考えている。
- ・パワーポイントなどの視聴覚教材を活用しており、学生の〇〇という反応を見てもこれが有効に機能していることが伺える。パワーポイントファイルを作成する上で、〇〇という工夫をしている。
- ・e-ラーニング授業において、教材を作成し、授業後のアンケートでは、学生から〇〇の点についてわかりやすいと好評を得た。
- ・出席、小テスト、レポート、期末テストなどの多様な成績評価方法を採用しており、特に小テストは〇〇という理由で有効に機能していると考えている。
- ・オフィスアワーを設置し、〇〇のようにして学生が来やすい雰囲気を作っている。また授業支援ソフト IT's Class を活用した授業を実施することにより、教材の入手、レポートの提出、質問など出しやすくしている。〇〇のことから考えて、これらの効果は十分上がっていると考えている。

### ス：その他観点

- ・授業のやり方について他教員と意見交換を行ない、このうち〇〇を授業に反映させ、〇〇という効果が上がった。
- ・他教員の授業参観を〇〇回行ない、〇〇というヒントを得た。これを授業に生かし、〇〇という効果が上がった。
- ・FDに関する書籍「〇〇」を読み、〇〇を授業に生かし、〇〇という効果が上がった。

### セ：組織的教育貢献

- ・就職指導で週平均10時間費やし、学生の就職支援に大いに役立った。
- ・学部入試の出題を担当し、〇〇のような人には言えない苦勞をした。
- ・学科・専攻のカリキュラムの全面見直しに中心的な貢献をした。

- ・学生相談員として週平均5時間を費やし、学生の落ちこぼれを減らすのに貢献した。
- ・学生募集活動で高校・高専を2回訪問した。
- ・留学生の日本語教育を担当した。

ソ：教育自己申告

- ・最優秀講義賞を獲得した。現代的教育ニーズ取組支援プログラム申請を中心的に取り纏め、採択に至った。学科の就職指導のためのデータベースを構築し、これを全学部に広めて就職指導の効率化に貢献した。
- ・障害を持った学生を担当し、教育研究活動の支援を行った。
- ・クラブ、サークルの指導に当たった。

ラ：社会貢献自己申告

一般人を対象に「だれにもでもわかる相対性理論」の本を出版した。現在のところ〇万部発行し、増刷に至った。

リ：管理運営上の責任者

- ・〇〇センター長として〇〇という新たな企画立案を行い、〇〇という意味で学内の教育研究の向上に大いに貢献した。
- ・〇〇学科長として学科の再編成に中心的な役割を果たした。また〇〇という運営効率化を提案し、実現を図った。
- ・〇〇センター長として〇〇の努力をして円滑な運営に努めた。
- ・〇〇学科長として〇〇という努力により学科の円滑な運営を実現した。

ル：全学委員会等

レ：部局委員会等

- ・〇〇委員長として〇〇という新たな企画を立案し、これを実現した。
- ・〇〇委員長として〇〇の努力をして円滑な運営に努めた。

ロ：安全衛生業務

- ・研究室の4S活動の推進を行った。毒物・劇物の取扱マニュアルを作成した。
- ・安全巡視に参加した。

ワ：各種資格・教育修了

- ・作業環境測定士の資格を取得し、安全衛生水準の向上に貢献した。
- ・衛生管理者の資格を取得し、衛生水準の向上に貢献した。

ヲ：管理運営自己申告

- ・全学（あるいは部局）の〇〇という管理運営の改善に専門的立場から〇〇というアイデアを提供して実現に至らしめ、効率的な管理運営の実現に貢献した。
- ・学科の管理運営の効率化に〇〇というアイデアを提供して実現に至らしめ、学科の効率的な管理運営の実現に貢献した。





## 教育職員評価に関するQ & A

### 評価全般

Q 1 : 何年ごとに評価を行うのか。

A 1 : 3年ごとに評価を行います。

Q 2 : どのような分野について評価を行うのか。

A 2 : 教育, 研究, 社会貢献及び管理運営の4つの領域について評価を行います。

Q 3 : 評価対象期間は何年間か。

A 3 : 教育, 社会貢献及び管理運営は過去3年度分, 研究は過去5年度分を対象としています。

Q 4 : 評価に当たっては, 教員情報データベースを活用するなどできるだけ簡素化できないか。

A 4 : ロータスノート上に教育職員評価システムを立ち上げ, 評価項目によっては教員情報データベースに入力したデータを活用することにより, できるだけ負担のかからないようにしています。

Q 5 : 評価は全ての教育職員が対象となるのか。

A 5 : 本学に採用されてから3年未満の教育職員や任期付き採用の教育職員については, 評価対象外としています。また, 本人の事情(病気療養中など)により評価を免除することもあります。

Q 6 : マニュアルは作成されるのか。

A 6 : 「教育職員評価システム操作マニュアル」を作成しています。

Q 7 : 評価シートへの入力はいつからできるのか。

A 7 : 5月~6月に入力できます。なお, 教員情報データベースへの入力は随時可能です。

Q 8 : 特筆すべき点があれば, 積極的に評価するようにできないか。

A 8 : 各領域の自由記述の項目及びその他自由記述にアピールしたい点を記載すれば, 部局等の判断により各領域の評価及び総合評価を1段階上げることができるようにしています。



Q9：評価の標準としては「良好」を想定しているのか。

A9：真面目に業務を遂行している教員の評価は、「最良」となるよう想定しています。

Q10：どのような場合に改善計画書を提出しなければならないのか。

A10：「やや問題があり改善の余地がある」又は「問題があり改善を要する」の評価を受けた場合及び改善点の指摘を受けた場合に、改善計画書を提出することとしています。

### 重み付け

Q11：重み付けはどのような考え方で付ければよいか。

A11：3年間の実績を踏まえ、どの領域に重点を置いて活動してきたのかを勘案して重み付けをしてください。なお、マニュアルに重み指数表①として、各領域の上下限を記載しています。

Q12：評価対象期間中に役職が変わった場合、重み付けはどうすればよいか。

A12：それぞれの役職の期間を考慮した上で重み付けをしてください。なお、マニュアルに重み指数表②として、各領域の上下限を記載しています。

### 教 育

Q13：学部又は大学院のみしか担当しない教育職員を両方とも担当する教育職員と同じ評価基準で評価を行うのは不公平ではないか。

A13：学部・大学院担当用、学部のみ担当用及び大学院のみ担当用の評価基準を作成しています。

Q14：授業担当については、履修登録者数によって取扱いに差を設けるのか。

A14：授業負担の程度を履修登録者数のみで見ることができないため、差は設けません。

Q15：博士論文審査で、主査と副査は同様に扱うのか。

A15：主査を1件、副査を0.5件として数えます。

Q16：FDの内容は、評価に反映されるのか。

A16：FDの内容を直接評価することは考えていません。なお、自由記述欄や教育の質に関する項目でFDの内容が記載されている場合にどのように評価を行うのかは、部局等の判断によります。

Q17：教育の質に関する項目は、科目別に記載しなければならないのか。あるいはまとめて記載してもよいのか。

A17：科目別に記載するかまとめて記載するかは、各教育職員の判断にお任せしています。

Q18：教科書の執筆分量や形態によって取扱いに差を設けるのか。

A18：執筆分量や形態だけでは内容の判断はできないので、差は設けません。

## 研 究

Q19：文系の共通講座の教育職員を他の教育職員と同じ評価基準で評価を行うのは不公平ではないか。

A19：今回は同じ基準で実施し、その結果を踏まえ、次回までに文系の共通講座用の評価基準を作成するかどうか検討することとしています。

Q20：トップレベルの論文とはどのように判断したら良いのか。

A20：分野ごとに異なるので、申告者本人が判断します。ただし、他の人が見ても納得できることが重要であり、その裏付けとなるものについても併せて記載します。

Q21：著書の執筆分量によって取扱いに差を設けるのか。

A21：執筆分量だけでは内容の判断はできないので、差は設けません。

Q22：著書の中に翻訳は入らないのか。

A22：翻訳も評価対象とします。

Q23：研究資金のうち、科研費や共同研究費等を大学内の複数教員で共同で取得している場合、分担はどうなるのか。

A23：データ入力画面で、分担者にチェックするとともに、分担金額が分かる場合には金額を入力します。

Q24：研究資金の件数は、採択された年度のみカウントされるのか。あるいは補助を受けた年度は全てカウントされるのか。

A24：科研費等のような複数年補助の研究資金と、財団等研究助成等のような毎年採択される研究資金との取扱いの整合性を図るため、補助を受けた年度を全て件数にカウントします。

## 社会貢献

Q25:学会の会長や理事と委員が同じ評価となるのはおかしいのではないか。

A25: 役職だけで貢献度を比較するのは難しいため、必要があれば自由記述の項目でアピールしてください。

Q26: 専門分野以外の活動(例えば、小説や歌集の出版、演劇の主催者など)により大学名が出る場合も、評価をすべきではないか。

A26: 必要があれば自由記述の項目でアピールしてください。

## 管理運営

Q27: 委員会等の活動状況を評価に反映させるべきではないか。

A27: 委員会等の活動状況をどのように評価するかは部局等の判断によります。

## その他

Q28: 評価結果をどのように活用するのか。人事、給与等に反映させるのか。

A28: 教育研究評議会で審議した結果、①改善を要すると判断した教育職員に対しては、改善点を指摘し、改善計画書を提出させる、②研究資金の配分には当面活用しない、③賞与への反映については、部局長が参考資料とすることがあり得る、④給与への反映については、時間をかけて検討する、こととなりました。

Q29: 評価基準については、常に見直しを行うべきではないか。

A29: 評価実施後に問題点の検証を行うとともに、外部評価や経営協議会における外部の意見を参考としながら、評価基準の見直しを行います。

Q30: センター等に所属する教育職員の評価はどうするのか。現在の評価の枠組にはなじまないのではないか。

A30: 評価基準に基づき評価を行います。最終的な評価はセンター長の判断によります。

Q31: 質問がある場合はどうしたら良いか。

A31: 各部局の部局評価委員長又は大学評価室にメール等でご連絡ください。

Q32: ブラウザが強制終了するが、どうしたら良いか。

A32: ネットスケープ(Java)の不具合ですが Sun マイクロシステムのサイトに不具合の情報が掲載されていました。Java ランタイム(JRE)のバージョン UP を行うことで問題解決できるようです。現在の JRE 1.3.1 から JRE 1.4 以上のバージョンをインストールするとよろしいかと思えます。





# 教育職員評価に関する規則関係について

平成 18 年 4 月

\* 本資料に関して御質問等ございましたら、下記にお問い合わせください。

<大学評価室（戸畑）>

内線 3513、3514

E-mail : dai-hyoka@jimu.kyutech.ac.jp





## 教育職員評価関係規則一覧

- (1) 国立大学法人九州工業大学学則 評価関係抜粋 . . . . . P 1
- (2) 国立大学法人九州工業大学評価実施規則 . . . . . P 2
- (3) 国立大学法人九州工業大学教育職員評価実施要項 . . . . . P 5
- (4) 国立大学法人九州工業大学教育職員評価システム運用方針 . . . . . P 13

# 国立大学法人九州工業大学学則

平成16年 4月 1日  
九工大学則第 1 号

改正 平成17年 3月 2日九工大学則第1号  
平成17年 3月24日九工大学則第3号

## 国立大学法人九州工業大学学則

### 第1章 総則

#### (目的)

第1条 国立大学法人九州工業大学（以下「法人」という。）は、国立大学法人法（平成15年法律第112号）の定めるところにより、九州工業大学（以下「本学」という。）を設置し、工業に関する専門の学術と一般の学芸とを教授研究し、もって文化の向上に寄与することを使命とする。

#### (業務の範囲等)

第2条 法人は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 本学を設置し、これを運営すること。
- (2) 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。
- (3) 法人以外の者からの委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。
- (4) 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。
- (5) 本学における研究の成果を普及し、及びその活動を推進すること。
- (6) 本学における技術に関する研究の成果の活用を促進する事業であって国立大学法人法施行令（平成15年政令第478号）で定めるものを実施する者に出資すること。
- (7) 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

#### (自己評価)

第3条 法人は、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、法人の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（次条において「教育研究等」という。）の状況について、自ら点検及び評価（以下「自己評価」という。）を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の自己評価の実施並びにその結果の公表及び検証に関し必要な事項は、別に定める。

#### (第三者評価)

第4条 法人は、前条の措置に加え、法人の教育研究等の状況について、法令で定めるところにより、本学の役員及び職員以外の者による評価を受けるものとする。

# 国立大学法人九州工業大学評価実施規則

平成18年3月22日  
九工大規則第18号

## (趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人九州工業大学学則（平成16年九工大学則第1号）（以下「学則」という。）第3条第2項の規定に基づき、国立大学法人九州工業大学（以下「法人」という。）における教育研究等の状況に係る自己評価の実施並びにその結果の公表及び検証に関し必要な事項を定めるものとする。

## (目的)

第2条 自己評価並びにその結果の公表及び検証は、法人の教育研究等の質的向上を図り、大学運営全般の改善に資するとともに、法人の諸活動を活性化させ、もって法人の基本理念に沿った目標を達成し、社会からの負託に応えることを目的とする。

## (定義)

第3条 この規則又はこの規則に基づく規定において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 「教育研究等」とは、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備をいう。
- 二 「自己評価」とは、自ら行う点検及び評価をいう。
- 三 「教育職員」とは、九州工業大学に在職し常時勤務する教授、助教授、講師及び助手をいう。
- 四 「事務職員等」とは、九州工業大学に勤務する事務職員、技術職員、教務職員及び技能職員をいう。
- 五 「部局等」とは、学則第11条から第16条に定める学部、大学院、学内共同教育研究施設、附属図書館、事務局等及び保健センターをいう。
- 六 「認証評価機関」とは、学校教育法（昭和22年法律第26号）第69条の4第1項の規定により文部科学大臣の認証を受けた者をいう。
- 七 「外部評価」とは、法人以外の者による検証をいう。
- 八 「国立大学法人評価」とは、国立大学法人法（平成15年法律第112号）第35条で準用する独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第32条第1項及び第34条第1項の規定に基づき国立大学法人評価委員会が実施する年度評価及び中期目標・中期計画評価をいう。
- 九 「認証評価」とは、学校教育法第69条の3第2項の規定に基づき認証評価機関が実施する評価をいう。

## (自己評価の種類)

第4条 法人の実施する自己評価の種類は、次の各号に掲げるものとする。

- 一 職員評価
- 二 組織評価

## (職員評価)

第5条 職員評価は、職員の教育研究活動等の一層の活性化を図り、法人の目的及び社会的使命の達成に資することを目的として実施するものとする。

2 職員評価は、教育職員を対象とする教育職員評価と、事務職員等を対象とする事務職

員等評価に分けて実施するものとする。

3 教育職員評価及び事務職員等評価の実施に関し必要な事項は、各々別に定める。

#### (組織評価)

第6条 組織評価は、部局等ごとに、法人の中期目標・中期計画及び認証評価機関が定める大学評価基準を勘案した評価項目に基づき評価を行うとともに、部局等の評価結果を基に法人全体としての評価を行うものとする。

2 組織評価の実施に当たっては、職員評価の結果及び学生又は学外者の意見が適切に反映されるよう努めなければならない。

3 組織評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。

#### (外部評価)

第7条 法人は、自己評価の結果について、外部評価を受けるものとする。

2 外部評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。

#### (国立大学法人評価及び認証評価)

第8条 法人は、自己評価及び外部評価を実施するほか、国立大学法人評価及び認証評価を受けなければならない。

2 国立大学法人評価及び認証評価の実施に当たっては、国立大学法人評価委員会又は認証評価機関が定める実施要領等に従い、適切に対応するものとする。

#### (結果の公表)

第9条 学長は、自己評価及び外部評価の結果を役員会、経営協議会及び教育研究評議会に報告するとともに、刊行物その他広く周知を図ることができる方法により法人内外に公表するものとする。ただし、職員評価の個別の評価結果は、本人、学長、本人が所属する部局等の長及び学長が必要と認めた者以外に対して公表しないものとする。

#### (結果の活用等)

第10条 部局等は、自己評価の結果に基づき、教育研究等に対する改善方策及び改善計画の策定を行うものとする。

2 学長及び部局等の長は、前項により策定された改善方策及び改善計画の実施に努めるとともに、評価結果を積極的に活用するものとする。

3 国立大学法人評価及び認証評価を受けるに当たっては、自己評価及び外部評価の結果を適切に反映させるものとする。

#### (監事への報告)

第11条 学長は、自己評価の結果を監事に報告しなければならない。自己評価の結果に基づく改善方策及び改善計画を定めたときも同様とする。

#### (雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

#### 附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

# 国立大学法人九州工業大学教育職員評価実施要項

平成18年 3月22日  
学 長 伺 定

## (趣旨)

第1条 この要項は、国立大学法人九州工業大学評価実施規則（平成18年九工大規則第18号）第5条第3項の規定に基づき、評価対象、評価実施単位、評価の領域その他教育職員の評価の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

## (評価対象)

第2条 評価対象となる教育職員は、評価実施年度の7月1日に九州工業大学（以下「本学」という。）に在職する者とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号に該当する教育職員は評価対象外とする。ただし、本人の希望により評価を受けることができる。

一 評価実施年度の4月1日現在において、本学に採用されてから3年未満の教育職員

二 任期付き採用の教育職員

3 本人の事情により評価の免除等を希望する教育職員がいる場合には、部局等で取りまとめの上、学長に対し、その理由等を付して評価の免除等を申請することができる。

4 学長は、教育職員から評価の免除等の申請があった場合には、その理由等を審査し、適切な措置を講ずることができる。

## (評価実施単位)

第3条 評価実施単位は、教育職員の所属する部局等ごととする。ただし、当該教育職員に主たる関係部局等がある場合には、双方の協議により、評価を実施する部局等を決定することができる。

## (評価の領域)

第4条 評価の領域は、教育、研究、社会貢献及び管理運営の4つに分類し、各領域に別表第一のとおり評価の種類及び評価項目を設定する。

## (評価の期間)

第5条 評価は、3年に1度実施し、各領域に係る活動の過去3年度分（研究については過去5年度分）を対象期間とする。

## (評価実施体制)

第6条 評価の実施に関する全学的な計画の決定、結果の全学集計及び公表その他全学的な調整は、大学評価委員会が行う。

2 部局等ごとの評価方針の決定、評価の実施及びその結果の取りまとめ等は当該部局等の長が行う。

3 部局等の長は、評価の実施に当たり、当該部局等の評価の実施に関する事項の専門的検討や実質的な評価作業を行う組織（以下「評価実施組織」という。）を置くことができる。



(評価基準)

第7条 各領域の評価基準は、別表第一のとおりとする。

(評価方法)

第8条 評価は、「教育職員評価システム」を活用して行う。なお、教育職員評価システムの運用方針及び操作マニュアルについては、別に定める。

2 教育職員は、教育職員評価システムの中の「教育職員評価シート」に自己の活動状況を入力し、部局等の長に申請するものとする。

3 部局等の長及び評価実施組織は、当該教育職員から申請のあった教育職員評価シートについて、評価基準に沿って各領域の活動状況をそれぞれ5段階で評価した上で、データ入力期間に各領域の合計が100%となるよう設定した「重み」を勘案し、

「最良」 40以上50まで

「良好」 30以上40未満

「やや問題があり改善の余地がある」 20以上30未満

「問題があり改善を要する」 10以上20未満

の4段階の総合評価を決定する。なお、必要に応じ教育職員から意見を聴取し、その内容を評価の参考とすることができる。

4 評価結果と併せて、優れた活動を行っている場合にはその活動の一層の向上を促し、活動状況に問題のある場合には適切な指導及び助言等により活動の改善を促す趣旨の指示・伝達事項を記載する。

5 教育職員評価シートの申請をしない教育職員については、評点を「0」として取り扱う。

6 部局等の長は、評価対象期間内に理事、副学長又は部局等の長を経験した教育職員の評価に当たり、学長又は理事の意見を聞くことができる。

(評価結果の通知及び報告等)

第9条 部局等の長又は評価実施組織は、評価結果を確定する前に教育職員に当該評価結果を内示し、評価結果に対する意見の申し立ての機会を設けるものとする。

2 教育職員から評価結果に対する意見の申し立てがあった場合には、その内容について検討した上で、最終的な評価結果を確定するものとする。

3 部局等の長は、評価結果を教育職員に通知するとともに、学長に報告するものとする。

4 学長は、評価結果について必要と認める場合には、部局等の長に再評価を求めることができる。

5 部局等の長は、学長から再評価を求められた場合には、1月以内に再評価を行い、その結果を学長に報告するとともに、当該教育職員に通知するものとする。

(評価結果の活用等)

第10条 評価結果は、教育職員が次期の評価期間の活動を充実させるために活用するものとする。

2 学長及び部局等の長は、評価結果を全学又は部局等の運営等の改善のための資料として活用するものとする。

3 「やや問題があり改善の余地がある」又は「問題があり改善を要する」との評価を受けた教育職員及び改善点の指摘を受けた教育職員は、次期の評価期間における「改善計画書」を部局等の長に提出し、改善に努めなければならない。

4 部局等の長は、部局等における評価結果の分析及び前項の規定により提出された改

善計画書を学長に報告するものとする。

(評価スケジュール)

第11条 評価スケジュールは、別表第二のとおりとする。

(評価結果の公表等)

第12条 評価結果の公表は、部局等の評価結果を全学で取りまとめ、集計したものとする。

2 教育職員個々の評価結果等は、本人、学長、本人が所属する部局等の長及び学長が必要と認めた者以外には公表しない。

(その他)

第13条 評価実施後にその状況を検証し、所要の見直しを行うものとする。

第14条 この要項に定めるもののほか、教育職員評価を行うために必要な事項は、別に定める。

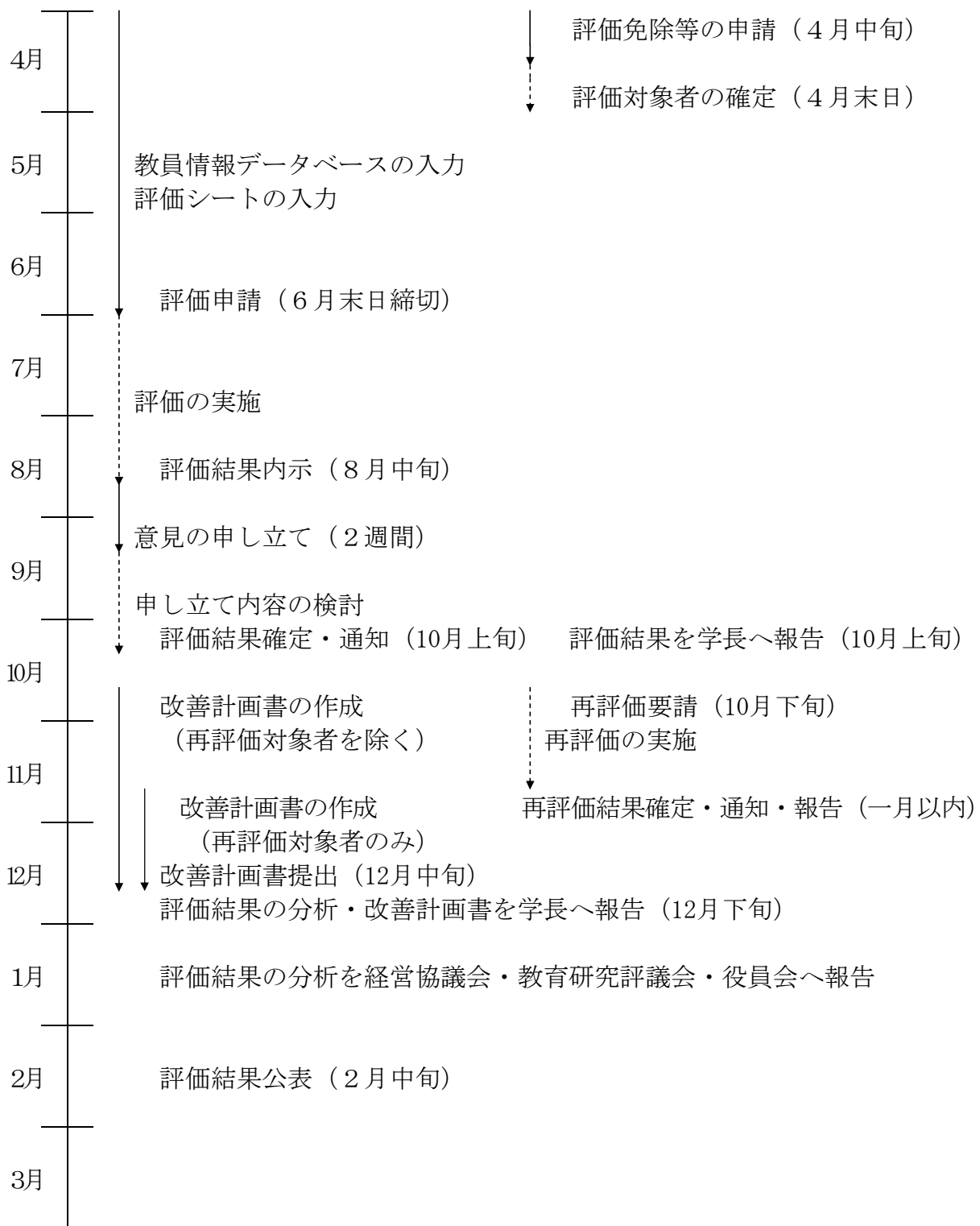
附 記

1 この要項は、平成18年4月1日から実施する。

2 最初に行う教育職員評価は、平成15年度から平成17年度までの3年度分（研究については平成13年度から平成17年度までの5年度分）の活動を対象として、平成18年度に行う。

別表第二（第11条関係）

評価スケジュール（評価実施年度）



————→ は教育職員の作業内容, -----→ は評価実施担当者の作業内容を示す。

# 国立大学法人九州工業大学教育職員評価システム運用方針

平成18年 3月22日  
学 長 伺 定

## (趣旨)

第1条 教育職員評価の実施にあたり，教育職員及び評価実施担当者の双方の負担軽減を図るために構築した教育職員評価システムについて，その運用方針を定めるものとする。

## (利用対象)

第2条 本評価システムを利用できる役員及び職員は，次の各号に掲げる者とする。

- 一 学長
- 二 理事
- 三 監事
- 四 副学長（評価担当）
- 五 事務局長
- 六 大学評価室に所属する職員
- 七 部局等の長
- 八 教育職員（第四項，第六項及び第七項に該当する者を除く。）
- 九 その他学長が必要と認める者

## (利用範囲)

- 第3条 前条第一号，第三号及び第五号に該当する者は，教育職員の評価シートを閲覧することができる。ただし，入力することはできない。
- 2 前条第二号及び第四号に該当する者は，教育職員の評価シートを閲覧することができるとともに，本人の評価シートに入力することができる。ただし，本人以外の評価シートに入力することはできない。
  - 3 前条第六号に該当する者は，教育職員の評価シートを閲覧することができる。また，当該教育職員が了解している場合に限り，評価シートに入力することができる。さらに，評価実施担当者が了解している場合に限り，評価内容を評価シートに入力することができる。
  - 4 前条第七号に該当する者は，当該部局等に所属する教育職員の評価シートを閲覧することができるとともに，評価内容を評価シートに入力することができる。また，本人の評価シートに入力することができる。
  - 5 前条第八号に該当する者は，本人の評価シートを閲覧することができるとともに，入力することができる。
  - 6 前条第八号に該当する者のうち評価実施担当者は，評価実施期間中に限り評価に必要な教育職員の評価シートを閲覧することができるとともに，評価内容を評価シートに入力することができる。
  - 7 前条第九号に該当する者の利用範囲については，学長が定める。

## (システムの管理)

第4条 本評価システムの管理は，総務課情報システム係の協力を得て大学評価室が行う。

## 附 記

この運用方針は，平成18年4月1日から適用する。